

平成 25 年度 体育センター長期研修研究報告

「教えて考えさせる授業」によって
理解が深まる保健学習
— 「説明活動」「チラシづくり活動」を通して —



神奈川県立体育センター 長期研究員
南足柄市立足柄台中学校 川田 真也

目次

第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	2
4	研究の仮説	2
5	研究の内容と方法	2
6	研究の構想図	3

第2章 理論の研究

1	中学校学習指導要領保健体育科の保健分野の 目標及び内容について	4
2	「教えて考えさせる授業」について	4
3	知識の活用について	7
4	言語活動について	8
5	本研究における「理解の深まり」の定義づけについて	10

第3章 検証授業

1	検証の方法	11
2	学習指導計画	14
3	授業の実際	20
4	検証授業の結果と考察	44
5	学習指導の工夫の効果	64
6	授業全体を振り返って	70

第4章 研究のまとめ

1	研究の成果と課題	72
2	今後の展望	73
3	最後に	74

<引用・参考文献>

第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題

「教えて考えさせる授業」によって理解が深まる保健学習
－「説明活動」「チラシづくり活動」を通して－

2 主題設定の理由

子どもたちをとりまく健康問題は、社会環境や生活様式の変化など様々な影響により、近年では生活習慣病、心の病、喫煙・飲酒・薬物乱用、性に関することや感染症なども大きな課題となっている。¹⁾

これらの健康問題の解決を目指し、学校における健康教育の中核を担う保健学習は、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成することが求められ、その役割はますます重要になってきている。²⁾ 中学校学習指導要領の保健体育の目標に示されている「健康の保持増進のための実践力の育成」について、解説では「健康・安全について科学的に理解することを通して、心身の健康の保持増進に関する内容を単に知識として、また、記憶としてとどめることなく、生徒が現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意志決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を育成することを示したものである。」としている。そしてその方法として、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行うなどの指導方法の工夫が示されている。^{3) 4)}

しかし、中学校での保健分野の授業の状況を見てみると、(財)日本学校保健会が平成22年度に実施した調査で約88%の生徒は保健の学習は大切だと感じているが、授業の内容がわかったと感じている生徒は約55%、授業で考えたり工夫したりできたと感じている生徒は約32%⁵⁾にとどまっており、実際の保健分野の授業では、生徒は十分な理解に至っておらず、さらなる指導方法の工夫が必要であると言える。またこれは、教師が説明し、板書するという自分の授業にもあてはまる。

そこで、本研究では、これらを解決する一つの方法として、東京大学 市川伸一教授が提唱している、予習、教師の説明、理解確認、理解深化、自己評価の5つの段階を踏まえて授業を構成する習得型の授業方法である「教えて考えさせる授業」の授業展開を基本とし、生徒は予習及び教師の説明の「教える」場面で獲得した知識を、理解確認、理解深化及び自己評価の「考えさせる場面」で活用することによって、理解の深まりが期待できるのではないかと考えた。⁶⁾

さらに、「考えさせる」場面の理解確認・理解深化において、アクティブ・ラーニングの考え方を基に、生徒が学習によって獲得した知識を活用し、それを情報として自分から他者に向けて発信する活動を取り入れることとした。具体的には、最初の段階では、提示された課題について、ホワイトボードを用いて特定の相手に説明する活動(以下「説明活動」という)を行い、次の段階では、学習した知識を総合的に活用して、不特定の相手への「チラシづくり活動」を行うこととした。

こうした学習過程と学習活動により、学習した知識の確認や新たな知識の獲得、知識の整理や関連付けなどの学力が発揮され、保健学習の理解が深まり、さらに、健康の保持増進のための実践力が育成されるようになるであろうと考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

本研究では、生徒の理解を深めるために、次にあげる保健分野の学習における指導法のモデルを提案することを目的とする。

- (1) 「教えて考えさせる授業」の流れを活用した指導法
- (2) 「理解確認」・「理解深化」の場面に『説明活動』及び『チラシづくり活動』を取り入れた指導法

4 研究の仮説

主題設定の理由に基づいて、本研究の仮説を次のようにまとめた。

保健分野の授業において、「教えて考えさせる授業」を行うことによって、理解を深めることができるであろう。さらに、その「理解確認」と「理解深化」の場面では、『説明活動』と『チラシづくり活動』が有効となるであろう。

5 研究の内容と方法

- (1) 授業実践に先立ち、文献等により、理論研究を行う。
- (2) 理論研究を基に学習指導計画を立て授業を行い、仮説の有効性を検証し、授業を振り返る。
- (3) 理論研究及び授業実践とその振り返りを基に、研究のまとめを行う。

6 研究の構想図

自らの意志決定や行動選択により健康を適切に管理できる

健康の保持増進のための
実践力の育成



【現状】

- ・子どもたちをとりまく健康問題は、課題が山積みである。
- ・学校における健康教育の中核を保健体育科の保健学習が担っている。
- ・「健康の保持増進のための実践力の育成」が求められている。

【授業の課題】

- ・保健の学習は大切だと感じているが、授業の内容がわかっていない。
- ・講義型の授業展開が多く、生徒は興味や疑問を持って、自ら学習する場面がほとんど無い。
- ・保健の授業が生徒の要望に十分対応できていない。

第2章 理論の研究

1 中学校学習指導要領保健体育科の保健分野の目標及び内容について

平成20年3月に改訂された中学校学習指導要領の保健体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」³⁾であり、従前の目標から引き続き、体育と保健を関連させていくことを強調したものとなっている。この目標の中にある保健分野に関するキーワードとして「健康の保持増進のための実践力の育成」³⁾が挙げられる。

「健康の保持増進のための実践力の育成」については、中学校学習指導要領解説保健体育科編で「健康・安全について科学的に理解することを通して、心身の健康の保持増進に関する内容を単に知識として、また、記憶としてとどめるのではなく、生徒が現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意志決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を育成することを示したものである。」と明記されている。^{3) 4)}

これを受けた保健分野の目標は、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。」³⁾である。学校段階の接続及び発達の段階に応じた指導内容の体系化の観点から、中学校では、個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解できるようにすることを目指したものになっている。

本研究では、科学的な理解の促進を図るために、「説明活動」と「チラシづくり活動」を段階的に行う。最初の段階では、学習した基本的な知識を確認する課題を提示し、それを、特定の相手に説明する活動を行い、次の段階では、学習した知識を総合的に活用して不特定の相手への「チラシづくり活動」を行う。これらの活動を通して、知識が活用され、理解を深めることができる学習過程を計画した。

2 「教えて考えさせる授業」について

(1) 「教えて考えさせる授業」とは

「教えて考えさせる授業」とは、文部科学省中央教育審議会教育課程部会臨時委員（副部長）でもある東京大学の市川伸一教授が、「わからない授業」からの脱却をはかり、「わかる授業」「子どもが充実感を感じられる授業」を目指して、明確な到達目標がある習得型の授業の基本スタイルとして提案している方法であり、基礎学力をどう保証するかという中で出てきた授業スタイルである。（表2-1）

はじめに「予習」を行い、子どもに授業の見通しを持たせる。そして授業では、未習の基本事項は「教師の説明」によって共通に教えることから入り、「理解確認」で、子ども同士の説明活動や教え合い活動等を通して理解の確認を図る。その上で「理解深化」で、学習した知識を活用した問題解決や討論等を行い、理解を深めていく。最後に、授業でわかったこと・わからなかったことを「自己評価」として記述させる。以上の5つの段階によって「教えて考えさせる授業」は構成されている。

表2-1 「教えずに考えさせる授業」と「教えて考えさせる授業」⁶⁾

	教えずに考えさせる授業	教えて考えさせる授業
授業のモデル		
授業の流れ	問題提示 自力（協同）解決 確認（まとめ） ドリルまたは発展	教師からの説明 理解確認課題 理解深化課題（発展課題） 自己評価活動

「教えて考えさせる授業」が提案された背景として、市川は表2-2のように2つの「わからない授業」があったことを挙げている。それは、平成10年に改訂された学習指導要領以前の詰め込みや教え込みによる旧タイプの「わからない授業」と、学習指導要領改訂以降のいわゆる「ゆとり教育」を通じて、平成20年の中央教育審議会（以下、中教審という）答申に、「子どもの自主性を尊重する余り、教師が指導を躊躇する状況があったのではないか⁷⁾と指摘されているような、教えずに考えさせる授業による「わからない授業」がある。

表2-2 2つの「わからない授業」⁸⁾

<p>旧タイプの「わからない授業」：「詰め込み」「教え込み」</p> <p>子どもの興味・関心や理解度を無視して教師が一方向的に知識を教え込む →説明ばかりなのでわからない・つまらない。</p> <p>新タイプの「わからない授業」：「教えずに考えさせる授業」</p> <p>教師がほとんど説明せず、基本的な知識をほとんど持っていない状態で「自分で考えましょう」「みんなで考えましょう」、子どもの発言が間違っている、正しい知識や考え方を教える場面がほとんど無い。（自己発見を重視するため） →何が正しいのかもわからないため、つまらない。</p> <p style="text-align: center;">どちらも「何がわかったかわからないので、充実感がない」</p>

この授業展開は、これまでの問題解決的な学習を否定するものではなく、むしろ問題解決や討論を重視している。ただし、それらをいきなり導入部から行わないのが特徴である。「教える」段階で、「教わって理解する」という学習、心理学でいう「受容学習」によって得た知識があつてこそ、より質の高い問題解決学習や、より多くの子どもが参加できる討論を行うことができると考えられる。市川は『「教えて考えさせる授業」は、より有効な問題解決学習、より多くの子どもが参加できる討論を行うための1つの手段と考えるべきだ。』と述べ、さらに「子どもの実態、教科や単元の性質、教師の力量などによって、臨機応変に選択していくことが望ましい。」とも述べている。また、「教えて考えさせる授業」では、目標に到達させるために、「何を教えるのか」「何を考えさせるのか」「その時間、あるいは単元全体としての目標をどこに置くのか」ということを明確にすることが大切になる。また実際の授業においては、子どもの理解状態を把握することを重視している。

平成20年に改訂された学習指導要領の総則には、「生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、

創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」³⁾と示されている。そして、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得すること、これらを活用することが求められており、そのための手段として、「教えて考えさせる授業」が有効であると考えられる。^{6) 8)}

(2) 教えて考えさせる授業の流れと内容

教えて考えさせる授業の基本的な流れは図2-1のとおりである。

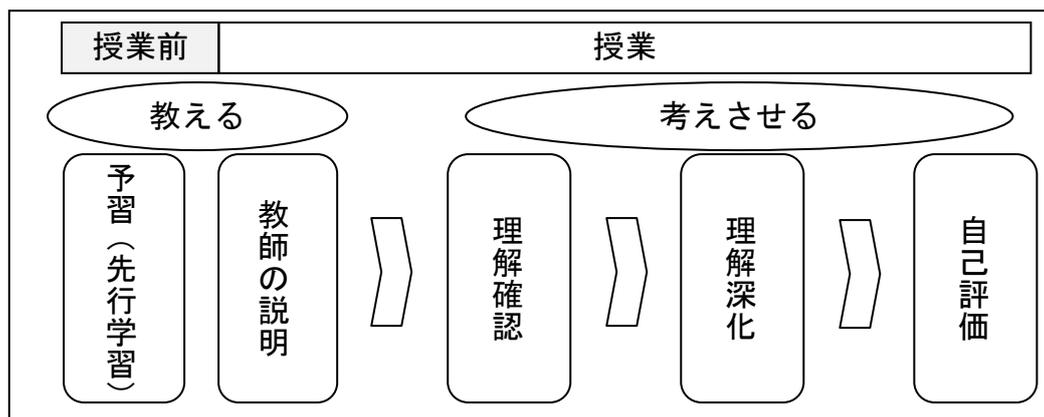


図2-1 教えて考えさせる授業の流れのモデル

ア 教える

(ア) 予習（先行学習）

市川は、予習の大きな目的が子どもをいわゆる「生わかり状態」にさせることであると述べている。予習は、学習する知識を完全に理解してくることを前提にするのではなく、子どもをある程度の予備知識を持った「生わかり状態」にさせるとともに、学習の見通しを持たせたり、予習でわからなかった疑問点を持ったりして授業に臨めるようにさせる。そして授業で教師の説明を受けたり、課題を行ったりすることを通して理解を深め、「本わかり」になることを目指していく。そうすることで、授業が進んでも子どもは、学習の見通しを持った「生わかり状態」からのスタートであるため、授業に参加している意識を持つことができ、主体的な学習につながると考えられる。⁶⁾

(イ) 教師の説明

市川は、「教えて考えさせる授業」における「教師の説明」とは、「教師から情報を伝える。」という比較的限定された意味合いで使っている。ここでは、子どもがその授業で初めて触れる知識や概念、つまり未習の基本事項は教師から教える。要するに、「考えさせる」場面で必要となる知識は、教師から子どもたちに共通に与えるということである。この際の注意点として、市川は、「教材、教具、操作活動などを工夫したわかりやすい教え方を心がける。また、教師主導で説明するにしても、子どもたちと対話したり、ときおり発言や挙手を通じて理解状態をモニターしたりする姿勢を持つ。」⁶⁾ことを挙げている。

イ 考えさせる

(ア) 理解確認

「考えさせる」の最初の段階として、教科書や教師の説明したことが理解できている

かを確認する子どもどうしの説明活動や教え合い活動を取り入れる。この活動は、問題を解いているわけではないが、考えないとできない活動として重視し、説明を受けていれば、大部分の生徒ができると想定される課題を設定する。子どもには、他者に説明するという行為で、自分に取り込んだ知識を使うことを通して、わかっていたつもりでも、実はわかっていなかったなどの自覚を促すなど、他者に説明できているかどうかで、理解度を確認する。ここでは、小グループやペアに分かれての説明活動や教え合い活動を促し、教師もわからないという子どもには積極的に教えていくことで理解度の向上を図る。⁶⁾

(イ) 理解深化

「考えさせる」の第2段階として、教えられた知識を活用しての問題解決の活動を取り入れる。この活動でも小グループによる協同を重視し、活動を通して子どもたちの参加意識を高め、コミュニケーションを促しながら、理解を深めることを目指す。

この場面における課題設定のポイントは、「子どもにとって考えがいのある課題かどうか」ということである。一通り習っても多くの子どもが誤解していそうな問題、習ったことを応用・発展させる問題、試行錯誤させながら技能を習得させるような課題などを用意し、知識や技能の確かな定着と理解を深めることをねらいとしている。⁶⁾

(ウ) 自己評価

「考えさせる」の第3段階として、子どもに自己評価をさせる。ねらいとしては、「自分がわかったことは何なのか」「まだよくわからないことは何なのか」を記述などにより表現させることを通して、子どもが自分をモニターし、理解状態を自己診断できるような、自分の認知に対する認知である「メタ認知」の力を身に付けさせることを目指す。子どもは、メタ認知を身に付けることによって、「今回学んだことを、他の場面では活かさないだろうか」と考えることができるようになるなど、より効果的な学習につながると考えられる。

また、生徒と教師の双方向的な理解確認やコミュニケーションを図ることにより、教師が授業改善を考える際の材料としても活用することが可能である。^{6) 9)}

3 知識の活用について

学習指導要領の改訂にあたり、平成20年の中教審答申では、体育科、保健体育科の課題として指摘されている項目において、保健では、「今後、自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し、行動を選択していくことが一層求められることから、生涯にわたって自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するために、保健の内容の体系化を図ること。」⁷⁾が課題であると示された。

この課題の解決に向けて、答申では、「今回の改訂においては、各学校で子どもたちの思考力・判断力・表現力等を確実にほぐすために、まず、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。」⁷⁾と、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能を活用する学習活動の充実の必要性を示した。さらに「各教科におけるこのような取組があつてこそ総合的な学習の時間における教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動も充実するし、各教科の知識・技能の確実な定着にも結び付く。」と、知識・技能を活用する学習活動の充実が、知識・技能の確実な定着に繋がることも示している。

そして、この答申を受けて改訂された中学校学習指導要領には、保健分野の内容の取扱いにおいて「保健分野の指導に関しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。」³⁾と記され、知識を活用する学習活動を取り入れることが求められている。また、中学校学習指導要領解説保健体育編でも「知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力等を育成していくことを示したものである。」⁴⁾と、その意図を説明している。

このことについて、「学習指導要領には、児童生徒が習得すべき基礎的・基本的な知識が学習内容として示されている。保健の学習では、これらの学習内容を理解できるように指導するわけではあるが、自らの健康を適切に管理、改善していく思考力・判断力等を育成するためには、習得した知識を活用する学習活動が必要となる。」¹⁰⁾と、渡邊も知識を活用する学習活動の必要性を述べている。

これらをまとめると、保健分野の授業は、知識や技能の習得だけにとどまらず、その知識や技能を活用する学習活動を行うことによって、思考力・判断力等を育成するとともに、知識や技能の定着につなげていくという、授業の進め方の大枠が見えてくる。

実際に知識を活用する学習活動について、森は、「授業で学んだ知識を自分の生活に当てはめたり、ある事柄に応用したり、それらを説明する学習活動が考えられる。また、健康に関する複数の題材や事象を比較して、その違いや共通点を見つけ、それらを説明する学習活動なども考えられる。」¹¹⁾と、イメージを示している。

このように、授業の中で教師の講義を一方向的に聞くだけでなく、生徒自らが活動することで学んでいく学習の方法に「アクティブ・ラーニング」というものがあり、現在大学でもこの方法による授業が広まりつつある。

アクティブ・ラーニングについて溝上は、「授業者が一方向的に学生に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究やPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）、ディスカッション、プレゼンテーションなど、学生の能動的な学習を取り込んだ授業を総称する用語である。」と説明している。また、アクティブ・ラーニングを実際に行うにあたり、溝上は、「学びにおける基礎・基本があり、その上で、個性と応用力を育むのがアクティブ・ラーニングなのである。」と、単純に授業へ活動を取り入れるのではなく、知識を獲得した上で、その知識の活用を図る活動を行うなど、活動を充実させるためには、まず知識の獲得が大切であることを述べている。¹²⁾

この考え方は、「教えて考えさせる授業」の考え方と共通する部分である。「予習」「教える」場面を通して獲得した知識を、「理解確認」、「理解深化」の学習活動で活用させることによって、理解を深め、健康の保持増進のための実践力の育成を目指す。本研究では、「教えて考えさせる授業」の流れを基本スタイルとし、その学習活動の方法として理解確認における「説明活動」と理解深化における「チラシづくり活動」を通して、学習内容の理解を深め、「健康の保持増進のための実践力の育成」につなげていきたいと考える。

4 言語活動について

(1) 言語活動

田村は、「言語活動は、活用する力を育てる具体的な手立てである。文字言語や音声言語を積極的に使って、情報のインプットとアウトプット、相互作用のコラボレーションを進めていくと、知識を活用する場面が多く出てくるであろう。」と、言語を通じた学習活動を充実させることで、知識を活用する力が育成されることを述べている。また、「覚えた知識を活用する機会が多いほど、知識が残る、定着につながる。さらに言えば、知識をただ暗記するだけ

でなく、身の周りのことや暮らしのことなど、自分と関連付けると知識のネットワークがより強固になる。」と、言語活動が知識を活用する力の育成だけでなく、知識の定着にもつながることについても述べている。¹³⁾

また、保健における言語活動について、植田は、「保健学習において言語活動を充実させていくことは、生徒の主体的な学びとクラスでの協同的な学びの深まりにつながっていく。それは、生徒の思考力や判断力の育成にもつながり、理解の深まりをも支えるものとなる。」¹⁴⁾と言語活動の充実による、理解の深まりについて述べている。

これらのことから、本研究では、授業展開の「考えさせる」場面の「理解確認」では、「教える」の場面で学習した知識を特定の仲間に「説明する」という活動、「理解深化」では、この時間で学習した知識やこれまでに身に付けてきた知識や経験を総合的に活用して、課題解決の方法を見付けたり、選んだりしたことを「チラシ」という形で不特定の仲間に「表現する」という活動で、田村が述べていた「情報のインプットとアウトプット」を意図的に行わせる。これらの活動を通して、知識を活用する力を伸ばすとともに、理解の深まりを図りたいと考える。

(2) 「説明活動」

「説明活動」について、市川は、「理解確認」の具体的な活動例の一つとして挙げている。市川は「先生の説明を聞いてよくわかったという子も、自分で説明させると、実はよくわかっていないことが自覚されるはず。わかった気になっていることが多いのです。」⁶⁾と、「説明活動」で考えさせる課題を通じて、自分の理解状態を診断し、理解を確実なものにしていくこと述べている。

また辻は、説明することによる学習者の学びを、理解できないと説明できない「説明できない」学び、伝えるべき重要なポイントを考える「相手に説明する」学び、そして相手の説明を聞いて学んだり、さらに説明する方法を学んだりする「お互いに説明し合う」学びの3つで示している。¹⁵⁾

本研究の「説明活動」では、活動を通して、自分の理解度を診断する。また、ペアで説明文を考えている時の意見交換や、説明を聞いた生徒が説明につけ足しをするなどのグループによる活動によって、生徒相互で知識の獲得をより確かなものにしていくことを図りたい。そして、ここで確認した知識を基礎として、「チラシづくり活動」でその知識を総合的に活用することを通して、理解を深めていきたい。

(3) 「チラシづくり活動」

文部科学省の「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」の、第3章の言語活動を充実させる指導と事例の(2)教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項において、保健分野では、「実習や実験などを実施した際の観察や体験を基に話し合い、考察し、個人生活における健康・安全に関する課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどの活動を充実する。また、健康に関わる概念や原則を基に、自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりしたことについて、筋道を立てて説明するなどの活動を充実する。」¹⁶⁾と言語活動を充実させるための留意事項が示されている。

本研究では、「予習」「教師の説明」「理解確認」で獲得した知識を総合的に活用し、「理解深化」を図るための活動として「チラシづくり活動」を考えた。「説明活動」は口頭による表現であるのに対して、「チラシづくり活動」では、紙面での表現というように方法が大きく変わる。そのため、課題について伝えたいことを、限られた紙面の中で、どのような方法で示すと、効果的に伝えることができるのかを考えることが求められる。また、伝える対象についても、「説明活動」では特定の相手のため、説明の間違いや説明の解釈のズレが生じた時

に、その場で修正を図ることができたが、「チラシづくり活動」では、相手が不特定のため、伝える情報の正確性などの伝える側としての責任がより求められる。

これらのことを踏まえながら、活動では、グループによる話し合いで自分と仲間の相互のコミュニケーションにより、多様な考えに触れることや、チラシで情報を正確かつわかりやすく伝えるために、表現の方法を工夫することなどを通して、学習した知識の整理や、獲得した知識と図や表を関連付けが図られると考える。これらのことは、教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項の保健分野に示された言語活動の内容と共通する部分がある。また、他のグループのチラシを見て自分のグループのチラシと比較して、違いなどから新たな発見をすることも考えられる。

このようにチラシづくりの過程における、知識の総合的な活用を通して、理解を深めていきたいと考える。

5 本研究における「理解の深まり」の定義づけについて

「理解」とは、物事の道理をさとり知ること、意味を飲み込むこと、物事がわかることである。¹⁷⁾

竹村は、「本当に理解するということは、ただ単純に暗記することではない。人が理解するということは、物事を関係づけたり意味のあることとして捉えることであり、また、自分が実際に体験したことは、イメージとして強く印象づけられる。これらは納得するレベルであったり、感動するレベルのものであったりするが、一つ一つが絵のような形となって記憶され、それらの絵がつながってその領域での認知的理解や情意的理解が形づくられると考えられている。また、子ども自身が記憶した絵を具体的に示すことができれば、より深い理解になっていく。」¹⁸⁾と述べている。また和唐は、「知識や学習というものは、学習者が獲得した情報を、それまでの体験や既存の知識と関連付けながら処理し、構造化や意味付けをしながら理解し、新たな知識として構成していく主体的で積極的な過程として捉えることができる。」¹⁹⁾と述べている。

これらのことから、本研究では、1単位時間の授業の中で、学習したことが相互に関連付けられる、学習したことを自分の生活行動と関連付けることなどの、「～ということがわかった。」「ああ…そういうことか。」「～ということか。」という納得や感動、また、「学習したことは自分の生活に関係することだ。」などの実感が伴った理解を「理解の深まり」と定義づけた。

第3章 検証授業

1 検証の方法

(1) 研究の仮説

保健分野の授業において、「教えて考えさせる授業」を行うことによって、理解を深めることができるであろう。さらに、その「理解確認」と「理解深化」の場面では、『説明活動』と『チラシづくり活動』が有効となるであろう。

(2) 期間

平成 25 年 9 月 26 日（木）～平成 25 年 10 月 30 日（水）

(3) 場所

南足柄市立足柄台中学校 第 3 学年 2 組教室

(4) 対象

第 3 学年 2 組（34 名）

(5) 単元名

保健分野「健康な生活と疾病の予防」

- ・喫煙と健康
- ・飲酒と健康
- ・薬物乱用と健康
- ・喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけ
- ・感染症とその予防①, ②
- ・性感染症の予防／エイズ①, ②

(6) 主なデータ収集の方法

ア 実態調査と分析（事前・事後アンケート等）

（ア）事前アンケート 9月19日（木）実施

（イ）事後アンケート① 11月13日（水）実施

（ウ）事後アンケート② 平成26年1月8日（水）実施

イ 学習カード

ウ 各グループのホワイトボード（画像）

エ グループで作成したチラシ（画像）

オ VTR

(7) 分析の視点と方法

ア 「教えて考えさせる授業」についての有効性

具体的な視点	手がかり	内容
(ア) 予習は有効であったか。	事後アンケート①	質問：「予習プリントを行うと、授業の見通しを持つことができるため、安心して授業に参加できた。」(4件法) 質問：「予習プリントを行って、学習内容に対して興味や関心が湧いてきた。」(4件法) 質問：「予習を事前にやってあると、先生の説明が分かった。」(4件法) 質問：「予習を行った感想を書いてください。」(自由記述)
(イ) 教師の説明はわかりやすかったか。	学習カード	質問：「教師の説明はわかりやすかったですか。」(4件法)
	事後アンケート①	質問：「教師の説明の感想を書いてください。」(自由記述)
(ウ) 理解確認ができたか。	学習カード	質問：「確かめの問題について、今回の授業で得られた知識を生かして、仲間に説明することができましたか。」(4件法)
(エ) 理解深化ができたか。	学習カード	質問：「チラシづくりにおいて、仲間の意見を聞き、自分の考えが深まることができましたか。」(4件法)
(オ) 学習を振り返り、理解状態を自己診断できたか。	学習カード	質問：「授業でわかったことや、わからなかったこと、感想などを書いてください。」(記入状況、自由記述の内容の分析及び分類)
(カ) 「教えて考えさせる授業」の授業展開は有効であったか。	事後アンケート①	質問：「今回の授業の進め方について感想を書いてください。」(自由記述の内容の分析及び分類)

イ 「説明活動」の有効性

具体的な視点	手がかり	内容
(ア) ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」は有効であったか。	事後アンケート①	質問：「二人で協力して説明することは、思考を深めることにつながった。」(4件法) 質問：「仲間の説明を聞くことで、理解が深まった。」(4件法) 質問：「ホワイトボードを使用した活動の感想を書いてください。」(自由記述)

ウ 「チラシづくり活動」の有効性

具体的な視点	手がかり	内容
(ア) 不特定の相手への「チラシづくり活動」は有効であったか。	事後アンケート①	質問：「グループで協力してチラシをつくることを通して、思考を深めることができた。」(4件法) 質問：「他のグループがつくったチラシを見ることによって、理解が深まった。」(4件法) 質問：「チラシづくり活動を行った感想を書いてください。」(自由記述)

エ 目指す生徒の姿の達成状況（理解が深まったか）

具体的な視点	手がかり	内容
(ア)理解が深まったか。	事前アンケート 事後アンケート①	質問：「保健の授業で学習した内容は、理解できましたか。」（4件法） 質問：「保健の授業で学習した内容は、自分に関係することだと実感していましたか。」（4件法） 質問：「授業前または授業中に抱いた疑問について『あっ、わかった』『ああ、そうか』と、その疑問を解決することができましたか。」（4件法）
(イ)学習を振り返り、日常生活の中で実践的に活用することができたか。	学習カード	質問：「今日の勉強で、これからの生活に役に立つことがあると思いますか。」（3件法）
	事後アンケート②	質問：「学習したことを生活の中で生かしたことがありましたか。」（2件法）（自由記述）

2 学習指導計画

(1) 単元の目標

※学習指導要領において(4)健康な生活と疾病の予防はアからカまでの内容で構成されている。本研究では、ウとエについて取り上げる。

ウ 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康

- ①喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。 [関心・意欲・態度]
- ②喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 [思考・判断]
- ③喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活のかかわりを理解することができるようにする。 [知識・理解]

エ 感染症の予防

- ①感染症の予防について、関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。 [関心・意欲・態度]
- ②感染症の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 [思考・判断]
- ③感染症の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活のかかわりを理解することができるようにする。 [知識・理解]

(2) 単元の評価規準

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	①健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料等を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②健康な生活と疾病の予防に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ②健康な生活と疾病の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となることについて、言ったり、書き出したりしている。 ②喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることについて、言ったり、書き出したりしている。 ③感染症は、病原体が主な要因となって発生することについて、言ったり、書き出したりしている。 ④感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることについて、言ったり、書き出したりしている。 ⑤エイズや性感染症の要因や感染経路、その予防法について、言ったり、書き出したりしている。

(3) 指導と評価の計画 (8時間)

時間	学習内容	学習活動	健康・安全 への関心・ 意欲・態度	健康・安全 についての 思考・判断	健康・安全 についての 知識・理解
1	喫煙と健康 ・喫煙の健康への影響 ・未成年者の喫煙の害 ・周りの人などへの影響	「説明活動」 (ホワイトボード) (キーワードカード 7枚)	②		①
2	飲酒と健康 ・アルコールの作用 ・アルコールの依存性 ・未成年者の飲酒の害	「説明活動」 (ホワイトボード) (キーワードカード 6枚)	①		①
3	薬物乱用と健康 ・薬物乱用と薬物依存 ・薬物乱用の害 ・薬物乱用の社会への影響について	「説明活動」 (ホワイトボード) (キーワードカード 3枚)	②		①
4	喫煙・飲酒・薬物乱用の きっかけ ・本人の知識や考え方、 対処能力、心理状態 ・社会的な影響 ・喫煙・飲酒・薬物乱用 の防止対策	ブレインストーミング 「チラシづくり活動」		①	②
5	感染症とその予防① ・感染症の原因 ・感染症の予防 ・病原体に対する体の 抵抗力	「説明活動」 (ホワイトボード) (キーワードカード 0枚)	①		③
6	感染症とその予防② ・感染症予防を考える	「チラシづくり活動」		①	④
7	性感染症の予防／エイ ズ① ・性感染症とは ・性感染症の予防	「説明活動」 (ホワイトボード) (キーワードカード 1枚)	②		⑤
8	性感染症の予防／エイ ズ② ・エイズ／H I Vにつ いての理解	「チラシづくり活動」		②	⑤

(4) 単元計画 (50分×8時間)

		5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	
1時間目	喫煙と健康	【教える】 1 喫煙の健康への影響 2 未成年者の喫煙の害 3 周りの人などへの影響					【理解確認】 「説明活動」 ※キーワードカード7枚 ・説明づくり ・説明と補足					
2時間目	飲酒と健康	【教える】 1 アルコールの作用 2 アルコールの依存性 3 未成年者の飲酒の害					【理解確認】 「説明活動」 ※キーワードカード6枚 ・説明づくり ・説明と補足 ・説明内容の全体への発表					
3時間目	健康 薬物乱用と	【教える】 1 薬物乱用と薬物依存 2 薬物乱用の害 3 薬物乱用の社会への悪影響					【理解確認】 「説明活動」 ※キーワードカード3枚 ・説明づくり ・説明と補足 ・説明内容の全体への発表					
4時間目	乱用のきっかけ 喫煙・飲酒・薬物	【教える】 1 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ 2 喫煙・飲酒・薬物乱用の防止対策			【理解深化】 「チラシづくり活動」 ・グループの話し合い ・チラシ作成							
5時間目	予防① 感染症とその	【教える】 1 感染症の原因 2 感染症の予防 3 病原体に対する体の抵抗力					【理解確認】 「説明活動」 ※キーワードカード0枚 ・説明づくり ・説明と補足 ・説明内容の全体への発表					
6時間目	予防② 感染症とその	【教える】 1 感染症予防を考える			【理解深化】 「チラシづくり活動」 ・グループの話し合い ・チラシ作成 ・お互いのチラシを見る							
7時間目	予防／エイズ① 性感染症の	【教える】 1 性感染症とは 2 性感染症の予防					【理解確認】 「説明活動」 ※キーワードカード1枚 ・説明づくり ・説明と補足 ・説明内容の全体への発表					
8時間目	予防／エイズ② 性感染症の	【教える】 1 エイズ／HIV についての理解			【理解深化】 「チラシづくり活動」 ・グループの話し合い ・チラシ作成 ・お互いのチラシを見る							

学習の振り返り

【自己評価】

(実際の授業内容に合わせ、変更したもの)

(5) 学習指導の工夫

ア 予習プリントと学習カード

本研究では、予習プリントを作成し、その学習を行う前日に配付した。予習を行う目的としては、予習で完全に知識を身に付けるのではなく、学習の見通しを持たせることや疑問を持たせることで、授業を主体的に取り組むことができるようにすることである。

そのため予習プリントの内容は、予習が生徒の過重負担にならないように、学習する知識を文章に穴埋め形式で入れていくようなものとし、生徒が教科書等を用いて5分程度でできるものにした。

また、「チラシづくり活動」を行う時間の予習プリントは、チラシのレイアウトやキャッチコピーを考える形式にすることで、実際の「チラシづくり活動」の話し合いの時にグループで持ち寄り、活用できるものにした。

学習カードは、教師の説明やスライドの内容についてメモを取ることができるような形式にした。メモについては、教師の説明やスライドのすべてをメモするのではなく、自分が知らなかったことや、このことが大切だと感じたことなどについてメモを取ることを生徒へ事前に話をした。

イ 視聴覚教材

教師からの説明の場面では、プレゼンテーションソフトを活用した。これは、画像や動画などを効果的に提示することで、視覚的に訴え、生徒がより短時間で具体的なイメージを掴みやすくするためである。

ウ 小グループによる学習

本研究では、「考えさせる」場面において、「説明活動」や「チラシづくり活動」を通して、生徒の理解を深めることがねらいである。そのため、4人程度の小グループを編成して、活動することとした。小グループでホワイトボードを用いた「説明活動」や「チラシづくり活動」に取り組むことで、意見の交換や教え合いが生まれ、課題に応じた知識の選択や学習した知識の整理、知識の関連付けなどの思考が生徒相互で促進され、知識の確認や新たな知識の獲得などの理解の深まりが、より一層図られるのではないだろうかと考えた。

グループの人数については、「説明活動」をペアで行うこと、「チラシづくり活動」では記事を書く分担などグループの全員に役割を持たせ易いこと、そして話し合いで全員が、自分の考えを述べることを考慮した結果、4人が妥当であると考え、グループを編成した。

また、グループの編成に当たっては、教室での授業のため、このグループ編成が教室の座席にも関係してくる。そこで、今回の授業だけでなく、他教科の授業や学級の活動などでも、グループで協力して、円滑に活動ができないか考えた。そこで生徒の様子をよく把握している学級担任に関わっていただき、グループの編成を行った。

エ 「説明活動」

「理解確認」の場面では、教師から、「予習」や「教える」で学習したことの確認になる問題を提示し、生徒は2人一組のペアで説明の文章を作り、もう一組のペアに口頭で説明を行った。また説明を聞いているペアは、説明を聞き、必要に応じて説明につけ足しを行った。その後、教師がいくつかのペアを指名し、クラス全体に向けて説明を行わせることによって知識を共有し、理解の深まりを図った。

説明の文章づくりは、その過程でいろいろなアイデアが出てくることが考えられた。そ

ここで、書いたり消したりなど、文章を修正することが容易にでき、そして説明を目に見える形に残し、自分たちの説明を振り返ることができるようにするため、A4サイズのホワイトボードを使用した。

説明を行うためには、獲得した知識から必要なものを選択し、相手にわかるように伝えるために知識を関連付けたりするなどの作業が必要である。また、説明を聞くことは、学習したことの確認や新たな知識の獲得が行われる。これらの一連の活動を通して「予習」や「教師の説明」で獲得した知識の習得を図った。

この場面における説明という活動は、授業の流れから見ると「教える」で学習した知識を初めて活用する場面のため、うまく説明できないことが予想された。そこで、各グループにホワイトボードの他に学習した知識をキーワードにしたカードを配付した。生徒は、このカードをホワイトボード上で並べかえ、自分で必要な言葉を加え文章にして説明を行うことができるようにした。

【ホワイトボードを用いた「説明活動」のながれ】

- a 4人一組のグループをペアに分けて、それぞれのペアにホワイトボード(A4サイズ)、赤と黒のペン、そして、説明を考えるための補助として、キーワードが書かれたカード(例：たばこの煙、有害物質など)を配付して活動を行う。
- b ペアでアイデアを出しながら、キーワードが書かれたカードを使い、文章になるように、黒のペンで言葉を書き足しながら説明を考える。
※キーワードのカードは、単元が進むごとに枚数を減らしていくことで、自分の言葉で説明できるようにする。
- c 完成した説明の文章をもう一方のペアに見せながら、口頭で説明を行う。
- d 説明を聞いたペアは、必要に応じて、ホワイトボードにより分かりやすく伝えるためのつけ足し等の修正を、赤のペンで行い、説明を行ったペアにホワイトボードを返す。

オ 「チラシづくり活動」

「理解深化」の場面では、獲得した知識を総合的に活用し、理解を深めるための学習活動として、4人一組のグループでA4サイズのケント紙に教師から提示されたテーマについて、同世代の中学生に伝えるための「チラシづくり活動」を行った。

限られた紙面の中で、自分たちが伝えたいことを、チラシという形でわかりやすく表現するためには、「何」について伝えたいのかを明確にし、そのことについて、どのような方法で示すと、見る人にわかりやすく伝えることができるのかを考えなければならない。その過程において、表現するためにはこれまでに獲得した知識から、わかりやすく伝えるために知識(情報)の精選や再構成などが必要になってくる。併せて、「説明活動」では、伝える対象が目の前にいる相手のため、説明の間違いや説明の解釈のズレが生じた時に、その場で修正を図ることができるが、「チラシづくり活動」では、相手が不特定のため、伝える情報の正確性などの伝える側としての責任がより求められる。

そこでこれをグループの活動にすることで、話し合い等の生徒相互のコミュニケーションの必要性が生じ、自分と仲間の考えを比較したり、多様な仲間の考えを聞いたり、他のグループのチラシを見たりすることを通して新たな知識の獲得なども期待できると考えた。

実際にチラシをつくるにあたり、生徒にチラシのイメージを持たせるために、神奈川県警察本部が社会のルールを伝えるために作成したチラシを提示した。

今回の授業で生徒がつくるチラシは、色づかいなどの見た目も大切であるが、「伝える」ということを重視した。そのため、学習してきたことから、「何」について伝えたいのか焦点化すること、伝えるためには、どのような情報が必要なのか、情報をどのような方法(文

章や図・表) で示すとわかりやすく伝えることができるかにポイントを置き、話し合いながら活動を進めていくことをアドバイスした。さらに、「教師の説明」の時にプレゼンテーションソフトで使用した教材をプリントアウトして、その中の図や表を切り貼りしてチラシに使うことができるようにした。

チラシ作成後、他のグループのチラシを見る時間を設けた。生徒は、チラシを見て感じた事やわかったことなどを付箋に書き、そのチラシに貼り付けるようにした。自分たちがつくったチラシと内容や伝え方を比較したりすることで、学習内容の理解を深めるとともに、自分たちのチラシに貼られた付箋を見て、自分たちの伝え方はわかりやすかったのかをモニタリングできるようにした。

【チラシづくりのながれ】

- a 予習プリントで事前にチラシで扱いたい内容やレイアウトの案を個人で考える。
- b グループで予習プリントを持ち寄り、話し合う。
 - ・グループとしてチラシで扱う内容を決める。
 - ・チラシのキャッチコピー、メッセージを考える。
 - ・チラシの内容を考える。
- c チラシの記事を書く分担を決め、吹き出しなどの枠が印刷された用紙に記事を書いたり、教師の説明で使用したプレゼンテーションソフトのスライドをカラー印刷した資料から、図や表を切り取ったりしながら記事を作成する。
- d 分担したものを持ち寄り、チラシを完成する。
- e チラシ完成後、他のグループのチラシを見て、次の内容について感じたことを付箋に書き、チラシに貼り付ける。
 - ・チラシを見て、新たにわかったこと
 - ・内容のまとめ方など伝え方の工夫が見られたところ
 - ・キャッチコピーやメッセージの工夫が見られたところ

3 授業の実際

8時間扱いの第1時間目 平成25年9月26日(木) 第3校時(10:25~11:15)		
本時の学習のねらい ≪関心・意欲・態度②≫ 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に取り組むことができるようにする。 ≪知識・理解①≫ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となることについて、言ったり、書き出したりできるようにする。		
本時の評価内容と評価方法 ≪関心・意欲・態度②≫【観察・ホワイトボード】 ≪知識・理解①≫【観察・学習カード】		
欄	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教える 25分	○本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【発問】日本にたばこが入ってきたのは、いつごろだろうか？ 1 明治時代 2 江戸時代 3 安土・桃山時代 4 室町時代 </div>	・本時の学習内容を簡潔に説明する。 ・自分が思うものに手を挙げるように指示する。 ・発問から、日本にたばこが入ってきてから長い歴史があるが、現在は喫煙に対する考え方が変わってきていることを説明し、【教える】につなげる。
	【教師の説明】 【学習内容】 ・たばこの煙の中に有害物質が含まれており、それらの作用により様々な急性影響が現れること。 ・常習的な喫煙により、様々な病気を起こしやすくなること。 ・未成年者の喫煙は、身体に大きな影響を及ぼし、ニコチンの作用などにより依存症になりやすいこと。 1 教師の説明を聞き、学習カードにまとめる。	・スライドは資料として生徒に配付する。 ・画像や動画等を用いて説明することにより、生徒が具体的にイメージを持つことができるようにする。
	○アイスブレイク(1分間漢字探し) ・グループで協力して、口に二画加えてできる漢字を考えて書き出す。	・グループで活動するにあたり、メンバーが協力して取り組む雰囲気作りを行う。
	【理解確認】 【確かめの問題】 ○次のことについて、キーワードのカードを用いながら理由を説明してみましょう。 「たばこを吸うと、心臓がドキドキしたり、息苦しくなったりするのはなぜでしょうか。」 <キーワードカード> たばこの煙・有害物質・脈拍数の増加・血圧の上昇・心臓への負担・毛細血管の収縮・酸素運搬能力の低下 (説明の例) たばこの煙に含まれる、有害物質(ニコチン・タール・一酸化炭素など)の作用で、毛細血管の収縮や脈拍数の増加、血圧の上昇、酸素運搬能力の低下など、心臓への負担が増加するから。	

<p>考えさせる 25分</p>	<p>2 グループを2つに分け(2人一組)、説明する人、聞く人を決める。説明する人は、ホワイトボードに説明する内容をまとめる。</p> <p>○キーワードが書かれたカードを使ってホワイトボードに文章を書いて説明する。</p> <p>○聞く人は、説明を聞いたあと、必要に応じて補足を入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループにホワイトボード、ペン、キーワードが書かれたカードを配付する。 ・どのように説明したら、初めて聞く人にも内容を理解してもらえるかというポイントで考えるよう指示する。 ・問題の「なぜ」の部分をよく考え、説明に入れるように助言する。 ・グループの活動終了後、生徒の理解の様子に応じて、補足の説明を行う。 <p>《関心・意欲・態度②》</p> <p>【観察・ホワイトボード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する内容がまとめられないグループには、学習したことを振り返ることを促すなど助言し、支援する。
	<p>【自己評価】</p> <p>3 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。</p> <p>○本時のまとめを行う。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。 <p>《知識・理解①》【観察・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。 ・学習カード回収後、特にわからなかったことを書いている生徒に対しては、学習カードにコメントによる助言を行う。

<授業者による振り返り>

今回の授業は、予習プリントをはじめ、ICTを活用した「教師の説明」、生徒相互のホワイトボードを用いた「説明活動」(理解確認)など、新しい試みを行った。そのため生徒たちは新鮮に感じ、高い興味関心を持って取り組んでいた。

特にホワイトボードを用いた「説明活動」では、説明する生徒、説明を聞く生徒お互いに、学習したことを活用して説明を考え、その説明に対してつけ足しを行うなど、本研究のねらいでもある理解の深まりが図られている様子がよく見られた。

当初の計画では、1時間の中で、「説明活動」と「チラシづくり活動」の両方を行う予定であった。しかし、説明が長くなり、「チラシづくり活動」を行うことができなかった。この部分については、説明する内容の精選と、再度、単元全体の構成を見直し、教えて考えさせる授業をどのように展開していくのか修正を図りたい。

<生徒が考えた説明の文章>

課題：たばこを吸うと、心臓がどきどきしたり、息苦しくなったりするのはなぜでしょうか。

たばこの煙の有害物質により 29

毛細血管の収縮、脈拍数の増加、血圧の上昇、酸素運搬能力の低下、心臓への負担

などの症状があらわれるため息苦しくなる。

たばこの煙に含まれる有害物質 34

影響を毛細血管の収縮や酸素運搬能力の低下が起る為

血圧の上昇や脈拍数の増加が発生し、心臓への負担が大きくなるから。

たばこの煙は有害物質の影響により 13

血圧の上昇、毛細血管の収縮、脈拍数の増加

などが起きます。

心臓への負担や酸素運搬能力の低下につながる原因。

タバコを吸うと、たばこの煙に含まれるニコチン、タール、一酸化炭素等の有害物質によって 30

血圧の上昇、脈拍数の増加、酸素運搬能力の低下

毛細血管の収縮、心臓への負担

などの体への悪影響が現れる。また、妊婦が喫煙すると、胎児の発育に悪影響を与えたり、早産の危険性を高める。その他、未成年者が喫煙すると体への悪影響を受けやすくなり、依存性に陥りやすいため、法律で禁止されている。

たばこを吸うと...

たばこの煙に含まれる有害物質により ?

心臓への負担、ニコチン、タール、一酸化炭素

毛細血管の収縮や血圧の上昇がかかるため、酸欠となり、落ちつかなくなったり、じびじびたりする。脈拍数の増加や酸素運搬能力の低下により、息苦しくなったりして体への影響がでてしまう。

たばこの煙にはたばこの有害物質 8

が多く含まれており、特にニコチンは

毛細血管の収縮により血圧の上昇、脈拍数の増加

などの心臓への負担を大きくする

8時間扱いの第2時間目 平成25年10月2日(水) 第3校時(10:25~11:15)		
本時の学習のねらい ≪関心・意欲・態度①≫ 健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に取り組むことができるようにする。 ≪知識・理解①≫ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となることについて、言ったり、書き出したりできるようにする。		
本時の評価内容と評価方法 ≪関心・意欲・態度①≫【観察】 ≪知識・理解①≫【観察・学習カード】		
時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教 え る 2 5 分	○前時の振り返りをする。	・前時の学習内容について、生徒が記入した学習カードから振り返りを簡潔に行う。
	【発問】 足柄台中学校の学区には、アサヒビールの工場がありますが、日本で初めて商業的国産ビールがつけられた場所はどこだと思いますか？ 1 長崎の出島 2 江戸 3 横浜 4 函館	
	○本時の学習内容を確認する。 【教師の説明】 【学習内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・酒の主成分エチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害を起こしたりすること。 ・急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし、意識障害や死に至ることもあること。 ・常習的な飲酒により、肝臓病や脳の病気など様々な病気を起こしやすくなること。 ・未成年者の飲酒は、身体への影響が大きいこと、エチルアルコールの作用などにより依存症になりやすいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が思うものに手を挙げるように指示する。 ・発問に付随して、南足柄市の近くの松田町に日本酒を製造する工場があることにも触れ、発問から、身近なところで造られ、多くの成人に飲まれているお酒が、飲み方により、健康に大きな影響を与えることを説明し、【教師の説明】につなげる。 ・本時のねらいを簡潔に説明する。
1	教師の説明を聞き、学習カードにまとめる。	・説明の時に画像を用いて、生徒が具体的にイメージを持つことができるようにする。
	【理解確認】	
	【確かめの問題】 ○次のことについて、学習したことを生かして説明してみよう。 ①なぜ、飲酒運転は法律で厳しく罰せられるくらいに危険な行為なのだろうか？ <キーワードカード> お酒・思考力や判断力・運動能力・脳や神経・運転・事故 (説明の例) お酒に含まれているアルコールによって、脳や神経の働きが低下し、思考力や自制心、運動能力を低下させる。そのため運転すると、ハンドルやアクセル、ブレーキの操作がスムーズにできず重大な事故につながる恐れがあるから。 ②体質を考えずに、過度に飲酒した場合、どのような危険があるだろうか？ <キーワードカード> 一気飲み・血中アルコール濃度・急性アルコール中毒・脳・呼吸が停止・意識を失う・危険 (説明の例) 「一気飲み」や大量に飲酒をすると、血中アルコール濃度が急激に上昇し、脳全体にまひが進むため、急性アルコール中毒を起こし、呼吸が止まったりして死にいたる危険がある。	

考えさせる 25分	<p>2 グループを2つに分け(2人一組)、担当する問題を決めて、ホワイトボードに説明する内容をまとめる。</p> <p>○キーワードが書かれたカードを使ってホワイトボードに文章を書いて説明する。</p> <p>○お互いの説明を聞いたあと、ホワイトボードを交換して、必要に応じて補足を入れる。</p> <p>3 自分たちが考えた説明を、クラス全体に発表する。(各問題1～2グループ程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループにホワイトボード、ペン、キーワードが書かれた2種類のカードを配付する。 ・2人で協力して説明する内容を考えることを指示する。 ・前時の同活動の様子から、どのように説明したら、初めて聞く人にも内容を理解してもらえるかというポイントを踏まえて考えるよう助言する。 ・問題の「なぜ」にあたる部分をよく考え、説明に入れるように助言する。 <p>《関心・意欲・態度①》【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する内容がまとめられない生徒には、予習プリントや学習カード、教科書のどこを参考にするか助言し、支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表するグループを指名する。 ・発表後、必要に応じて、補足の説明を行う。
<p>【自己評価】</p> <p>4 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。</p> <p>○本時のまとめを行う。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。 <p>《知識・理解①》【観察・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード回収後、特にわからなかったことを書いてある生徒に対しては、学習カードにコメントによる助言を行う。 	

<授業者による振り返り>

教師による説明が長くなってしまい、生徒の活動時間が短くなってしまった。その原因を考えると、学習内容が整理されていない漠然とした説明が行われてしまっていることに原因があると感じられた。学習カードを読んでも、本時の学習のポイントが生徒に伝わっていない様子が見られた。

そこで次時に向けて、学習内容を整理し、要点のキーワード化などをしていくことで本時の学習のポイントを焦点化し、効率的かつ効果的な説明になるようにしていきたい。また、予習プリントと説明をリンクさせることで、予習プリントを行ってくることを効果を高めたいと考える。

<生徒が考えた説明の文章>

課題①：なぜ、飲酒運転は法律で厳しく罰せられるくらいに危険な行為なのだろうか？

お酒 によつて 思考力や判断力 運動能力 が落ち
 脳や神経 が影響をうけ 運転 に必要な感覚
 が無くなり、方向車線にズレたり、信号
 を無視したりして、人や車などとぶつかる 事故
 が起きてしまうため飲酒運転は絶対だ！

7/14

お酒 を飲ると、 5.17
 脳や神経 が麻痺して 思考力や判断力
 運動能力 が低下するので 運転 をすると、
 ブレーキの踏み間違いなどによる 事故 が
 起こる
 や、ハンドルを握る際の力も弱くなる
 ため、飲酒運転は、だめです。

お酒 のアルコール成分によって 16
32
 思考力や判断力、運動能力 が低下し
 運転 操作をおぼろげに 事故 をおこす
 可能性があります。

お酒 を飲むと 脳や神経 の働きを 22
 低下させ 思考力や判断力、運動能力 を低下 29
 させる作用がある。
 そのため 運転 をするとき ハンドル ブレーキ
 アクセルなどの操作を間違えてしまい 事故
 がおこす

課題②：体質を考えずに、過度に飲酒した場合、どのような危険があるだろうか？

② 体質 を考えずに 一気飲み などで 処理
 能力を上回るアルコールを摂取すると 血中アル
 コール濃度 が上
 昇し 急性アル
 コール中毒 になり 脳 が麻痺し、
 呼吸が停止 したり 意識を失う などの 危険 性が
 ある。

24&20

体質 を考えずに飲酒すると 一気飲み 6.9
 して、 脳 が 危険 になる。
 急性アル
 コール中毒 になることもあり、呼吸が停
 止 して
 意識を失う ことがおこす

一気飲み のように短時間で大量 18
 の酒を飲むと、急性アル 19
 コール中毒 毒に
 なることになり、血圧が低下し 意識を失う
 こと、呼吸が停 止 し死亡する 危険 がある。

脳 血中アル
 コール濃度 急性アル
 コール中毒

体質 を考えずに過度に飲酒をした場合 15.26
 脳 や神経、思考力、自律神経の
 能力などの低下がある。例えば、一気飲み をすると
 意識を失う こと、呼吸が停 止 して、命の 危険 になり
 かねることがある、などなど...

血中アル
 コール濃度 急性アル
 コール中毒

8時間扱いの第3時間目 平成25年10月4日(金) 第2校時(9:30~10:20)		
本時の学習のねらい ≪関心・意欲・態度②≫ 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に取り組むことができるようにする。 ≪知識・理解①≫ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となることについて、言ったり、書き出したりできるようにする。		
本時の評価内容と評価方法 ≪関心・意欲・態度②≫【観察】 ≪知識・理解①≫【観察・学習カード】		
時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教 え る 25 分	○前時の振り返りをする。	・前時の学習内容について、生徒が記入した学習カードから振り返りを簡潔に行う。
	【発問】 学生が薬物から抜け出せなくなっていく動画を見て、どのような印象を持ちましたか。 予想される考え：怖い、危険、人が変わってしまっている、髪や服装が乱れてきている	
	○自分の抱いた印象を発表する。 ○本時の学習内容を確認する。 【教師の説明】 【学習内容】 ・覚せい剤や大麻の摂取によって急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと。 ・薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるなど様々な障害が起きること。 ・薬物乱用は、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあること。	・学生が薬物から抜け出せなくなっていく動画を提示する。 ・数名を指名する。 ・生徒が持つと予想される「薬物は怖い」という印象から、「なぜ薬物は人をこのようにしてしまうのか」という点にも目を向けさせ、 【教師の説明】 につなげる。
1	教師の説明を聞き、学習カードにまとめる。	・説明の時に画像や動画を用いて、生徒が具体的にイメージを持つことができるようにする。
【理解確認】 【確かめの問題】 ○次のことについて、学習したことを生かして説明してみよう。 ①薬物乱用とは、どのようなことなのだろうか。 <キーワードカード> 一回・医薬品・法律 (説明の例) 医薬品を医療の目的以外に使用したり、覚せい剤や大麻など、法律で禁止されている薬物や化学物質を不正に使用したりすること。 ②なぜ、薬物乱用はやめられなくなってしまうのだろうか。 <キーワードカード> 依存性・身体的苦痛・精神的苦痛 (説明の例) 薬物には依存性があり、薬物の作用が切れると、精神的苦痛や身体的苦痛を感じるため、これらから逃れるために、また薬物を使用してしまうため、止められなくなってしまう。		

考えさせる 20分	<p>2 グループを2つに分け(2人一組)、担当する問題を決めて、ホワイトボードに説明する内容をまとめる。</p> <p>○キーワードが書かれたカードを使ってホワイトボードに文章を書いて説明する。</p> <p>○お互いの説明を聞いたあと、ホワイトボードを交換して、必要に応じて補足を入れる。</p> <p>3 自分たちが考えた説明を、クラス全体に発表する。(各問題1~2グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループにホワイトボード、ペン、キーボードが書かれた2種類のカードを配付する。 ・2人で協力して説明する内容を考えることを指示する。 ・前時の同活動の様子から、どのように説明したら、初めて聞く人にも内容を理解してもらえるかというポイントを踏まえて考えるよう助言する。 ・問題の「なぜ」にあたる部分をよく考え、説明に入れるように助言する。 <p>《関心・意欲・態度②》【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する内容がまとめられないグループには、学習したことを振り返ることを促すなど助言し、支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表するグループを指名する。 ・発表後、必要に応じて、補足の説明を行う。
	<p>【自己評価】</p> <p>4 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。</p> <p>○本時のまとめを行う。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。 ・机間指導しながら、生徒へ助言し、支援する。 <p>《知識・理解①》【観察・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。 ・特に、わからなかったことを書いてある生徒に対しては、学習カードにコメントによるアドバイスを行う。

<授業者による振り返り>

授業前の生徒は、薬物は怖いというイメージを持っているが、なぜ怖いのかという部分の知識はあまり持っていない様子であった。そのため、関心が高く、教師の説明を聞きながら頻繁にメモを取るなど、学習しようという意欲がよく見られた。生徒の振り返りからは、薬物が怖いことをよりわかったなど、理解の深まりを感じさせる内容の記述が見られた。

ホワイトボードを用いた「説明活動」も3時間目になり、スムーズに活動できていた。説明の内容も、学習したことを、ただ羅列するのではなく、薬物には絶対に手を出してはダメという、学習を通して感じた自分の気持ちをメッセージとして盛り込むなど、学習内容を自分の中で整理し、自分の言葉で説明しようという変化が見られ始めた。

<生徒が考えた説明の文章>

課題①：薬物乱用とは、どのようなことなのだろうか。

薬物乱用とは、**医薬品**を医療の目的から外れて使用したり、**法律**で禁止されている薬物や化学物質を不正に使用したりすることをいい、**一回**の使用でも乱用である。
23.25

一回の使用でも乱用である。
7.33
医薬品を医療の目的から外れて使用すること。
薬物乱用は多くの国で**法律**により厳しく禁止されている。

薬物乱用とは、**覚せい剤**等の**禁止薬物**の使用を指すこと。また、その**影響**のため**法律**で禁止されている。
医薬品を本来の目的から外れて使用すること。また、**一回**の使用でも乱用という。

医薬品を医療の目的から外れて使用し、**法律**で禁止されている薬物や化学物質を不正に使用すること。不眠症でもないのに**睡眠薬**を飲み、**西銘釘感**を味わうなど。
また、**一回**の使用でも、**薬物乱用**となる。
20.24

課題②：なぜ、薬物乱用はやめられなくなってしまうのだろうか。

一度使用してしまえば、**心身の状態**がその**反動**で、**記憶の喪失**などの**精神的苦痛**や、**体の痛み**などの**身体的苦痛**が現れて、その**苦痛**が**逃れるため**に**また薬物を使用してしまう**。
薬物を使用しているときの**依存性**。
15.26.6

薬物は、使用すると**痛み**がたまると感じるといった**快感**があるが、**効果**が切れると、**興奮感**や**記憶**の消失などの**精神的苦痛**、**痛み**や**嘔吐**などの**身体的苦痛**が現れる。この**苦痛**が**逃れるため**に**继续使用**して**依存性**があるから。
21.32

薬物には**依存性**がある。使用すると**気分が高揚**した**ワザ**が**効果**が切れてくると、**記憶の喪失**などの**精神的苦痛**や、**嘔吐**などの**身体的苦痛**が起る。それを**逃れるため**に**くり返し**使ってしまう。
量が増える。
2.37

薬物の乱用は**脳**に**直接ダメージ**を与え、**妄想**や**幻覚**が見えるがその**反動**で**身体的苦痛**や**精神的苦痛**がたまると**逃れるため**に**また薬物を乱用**してしまう。
そのため**依存性**が高くその**サイクル**で**どんどん使用量が増え**やめられなくなってしまう。
7.14

8時間扱いの第4時間目 平成25年10月11日(金) 第2校時(9:30~10:20)		
本時の学習のねらい ≪思考・判断①≫ 健康な生活と疾病の予防について、学習したことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明することができるようにする。 ≪知識・理解②≫ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることについて、言ったり、書き出したりできるようにする。		
本時の評価内容と評価方法 ≪思考・判断①≫【観察・学習カード・チラシ】 ≪知識・理解②≫【観察・学習カード】		
時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教える 15分	○前時の振り返りをする。 ○本時の学習内容を確認する。 1 たばこ、酒、薬物等に手を出してしまう原因を考える。(ブレインストーミング)	・前時の学習内容について、何人もの生徒が学習カードに「なぜ薬物に手を出してしまうのか」という疑問を記入していたことに触れて、本時はそのことについて学習することを話す。
	【発問】 喫煙・飲酒・薬物乱用の害やおそろしさを知りながら、また、法律で禁止されていることを知りながら、それでもなお、それらに手を出してしまう人がいるのはなぜだろうか？ ○原因について、予習プリントに書いてきた自分の考えや、今思いついたものを、より多く付箋に書き出す。 ○付箋で出されたものを、模造紙に貼り、グループで話し合いながら原因ごとに分類する。 ○分類したら原因(見出し)を書き入れる。 ○自分たちが話し合った内容を発表する。(1~2グループ) 【教師の説明】	・ブレインストーミングの方法を簡単に説明する。 ・思いついたものを、より多く付箋に書き出すように指示する。 ・他のグループが思いつかなかった考えなどを紹介する。 ・発表するグループを指名する。
	【学習内容】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を助長するものに対して適切に対処する必要があること。	
	2 予習プリントを確認しながら教師の説明を聞き、学習カードに内容をまとめる。	・説明の時に画像を用いて、生徒が具体的にイメージを持つことができるようにする。
	【理解深化】 【課題】 これまでに学習してきた事を生かして、中学生に喫煙や飲酒、薬物乱用の防止を呼びかけるチラシをつくってみよう。	
	3 チラシの内容を個人で考え、学習カードに記入する。	・グループで活動する前に、個人でチラシの内容を考えさせることで、自分の考えを持

考えさせる
35分

4 チラシの内容を話し合い、作成する。

〈話し合いの内容〉

- ・伝えたい内容
- ・伝える方法（文章、図や表など）
- ・レイアウト

など

- ・話し合いに参加できるようにする。
- ・神奈川県警察本部が作成しているチラシを見本として示し、生徒がチラシづくりのイメージを持てるように支援する。
- ・今回のチラシ作りは、本時までの3時間のまとめとして捉えて作成することを説明する。
- ・チラシづくりの進め方を示す。
- ・わかりやすく伝えることを踏まえて作成することをアドバイスする。
- ・図やグラフを使用する場合は、各グループに配布した資料から使用してよいこと、その他の資料については、プリンタで印刷して、用紙に貼り付けてよいことを説明する。

《思考・判断①》

【観察・学習カード・チラシ】

- ・チラシづくりが進まないグループには、伝えたいことを、どのような方法で伝えると、見る人に伝わりやすいかなど適宜助言を行うなど支援する。

【自己評価】

5 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。

○本時のまとめを行う。

- ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。

・机間指導しながら、生徒へ助言し、支援する。

《知識・理解②》【観察・学習カード】

- ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。
- ・特に、わからなかったことを書いてある生徒に対しては、学習カードにコメントによるアドバイスをを行う。

○次時の学習内容を確認する。

〈授業者による振り返り〉

本時は、これまでの3時間で学習したことの理解を深める活動として、4人のグループで「チラシづくり活動」を行った。「教師の説明」の時間が伸びてしまったことで、活動時間が短くなってしまったが、生徒は仲間と意見交換を行いながら精力的にチラシづくりを進めていた。

話し合いの様子やつくられたチラシを見ると、自分たちのメッセージを効果的に伝えるため、学習した知識を整理し、そこから知識を情報として選択することの難しさを感じていることがうかがえた。そんな中、学習カードの振り返りに「もっと図や表を使うと、見やすくなるのではないだろうか。」と、伝え方の工夫が必要であることを自分たちのチラシを見て感じている生徒がいたことは、次回のチラシづくりに向けて好材料であると考えられる。

次回のチラシづくりでは、活動時間の確保とともに、伝えたいことを焦点化すると、情報を選択しやすいくこと、そして図や表を用いるなど伝え方を工夫すると、自分たちのメッセージを効果的に伝えることができることに着目させたい。

<生徒がつくったチラシ>

課題：これまでに学習してきた事を生かして、中学生に喫煙や飲酒、薬物乱用の防止を呼びかけるチラシをつくってみよう。

～薬物とわたしたち～

薬物乱用は、なぜいけないのでしょうか？

1. 自分の意志でやるのではなく、依存性があるから
2. 身体に大きな影響を及ぼすから
3. 社会への悪影響

なぜ薬物に手を染めてしまうのか？

1. 周りの人や、友達に誘われるから
2. 一回だけならいいかなという軽い気持ち
3. 怖い人に誘われて断れない

恋人や友達に誘われたときの対処法

1. 話題を切り替えて逃げる
2. 何日も同じことを繰り返して辞める

薬物乱用はダメ！ゼッタイ！

たばこを矢張りしてはどうか？

タバコはなぜいけないのか？

非常に依存性が強く、体に悪影響を与え、特に中学生の喫煙者は、体の成長に悪影響を及ぼします。

過度の喫煙量では、右のように2500mの上で生活しているのと同じです。

また、タバコが与える悪影響は、自分だけでなく、その煙によって他の人にも悪影響を及ぼします。

このようなことがあるタバコとあなたは吸おうと思いませんか？

65歳女性
非喫煙者の肺



70歳男性
1日60本×55年間の肺



1日70本喫煙と肺がん



アルコールの危険性

アルコールを飲むと...

アルコールは肝臓や神経の働きを低下させ、思考力や自制心、運動能力を低下させます。その結果、交通事故などの事件を起しやすくなります。

体内に入ったアルコールは、肝臓で処理されます。しかし能力には限界があるので、これ以上飲むと血中アルコール濃度は上昇し、心身の働きに悪影響が表れます。



アルコールを摂取



肝臓にアルコールが蓄積



過度に飲んだ場合は脳で処理されず

健康への影響

タバコには、ニコチン、タール、一酸化炭素の3つの成分が含まれている。

- ニコチン……依存性がある。
- タール……肺を傷つけて、働きを低下させる。
- 一酸化炭素……酸素を運ぶ能力が下がります。

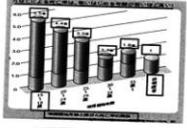
それ以外にもさまざまな影響が！




未成年への影響

発育期である私たちに大人に比べてタバコの有害物質の影響を受けやすい！！

→ だが法律で禁止されているから。(未成年者喫煙禁止法)



周囲への影響

たばこの煙には、吸う人の煙(主煙)とたばこの灰から出る煙(副煙)がある。

主煙



副煙



8時間扱いの第5時間目 平成25年10月18日(金) 第3校時(10:25~11:15)		
本時の学習のねらい ≪関心・意欲・態度①≫ 健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料等を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に取り組むことができるようにする。 ≪知識・理解③≫ 感染症は、病原体が主な要因となって発生することについて、言ったり、書き出したりできるようにする。		
本時の評価内容と評価方法 ≪関心・意欲・態度①≫【観察】 ≪知識・理解③≫【観察・学習カード】		
時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教える25分	○前時の振り返りをする。 ○本時の学習内容を確認する。	・前時の学習内容と、作成したチラシについて話す。 ・本時のねらいを簡潔に説明する。
	【発問】 1個のインフルエンザウイルスがのどに付着すると、24時間後にはウイルスがどのくらい増殖しているだろうか？ 1 100万個 2 1万個 3 100個 4 24個	
	【教師の説明】 【学習内容】 ・感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる病気であり、適切な対策を講ずることにより予防できること。 ・病原体には、細菌やウイルスなどの微生物があるが、温度、湿度などの自然環境、住居、人口密度、交通などの社会環境、また、主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に複雑に関係する中で、病原体が身体に侵入し、感染症が発病すること。 ・感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であること。	・自分が思うものに手を挙げるように指示する。 ・発問を通して、生徒の学習への興味・関心を引き出す。
1 予習してきたことを確認しながら教師の説明を聞き、学習カードにまとめる。	・説明の時に画像を用いて、生徒が具体的にイメージを持つことができるようにする。	
【理解確認】 【確かめの問題】 ○次の感染症について予防対策を説明してみよう。 ① インフルエンザ (説明の例) ・「感染源」：アルコール消毒をおこなう。 ・「感染経路」：手洗い、うがいを行う。マスクをする。人ごみの中に行くことを避ける。 ・「抵抗力」：予防接種を受ける。睡眠や休養を十分にとる。3食しっかり食べる。 ② ノロウイルス (説明の例) ・「感染源」：食器や調理器具を熱湯で消毒する。 ・「感染経路」：石けんを使い、よく手を洗う。加熱すべきものは十分に加熱する。 ・「抵抗力」：睡眠や休養を十分にとる。		
2 4、5人一組のグループを2つに分け(2人一組)、担当する問題を決めて、それぞれ、	・各グループにホワイトボードを配付する。	

考えさせる 25分	<p>ホワイトボードに説明する内容をまとめる。 ○お互いの説明を聞いたあと、ホワイトボードを交換して、必要に応じて補足を入れる。</p> <p>3 自分たちが考えた説明を、クラス全体に発表する。(各問題1～2グループ程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2人で協力して説明する内容を考えることを指示する。 ・これまでの同様の様子から、どのように説明したら、初めて聞く人にも内容を理解してもらえるかというポイントを踏まえて考えるよう助言する。 <p>《関心・意欲・態度①》【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する内容がまとめられない生徒には、予習プリントや学習カード、教科書の、どこを参考にするとよいか助言し、支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表するグループを指名する。 ・発表後、必要に応じて、補足の説明を行う。
	<p>【自己評価】</p> <p>4 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。 ○本時のまとめを行う。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。 <p>《知識・理解③》【観察・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。 ・学習カード回収後、特にわからなかったことを書いてある生徒に対しては、学習カードにコメントによる助言を行う。

<授業者による振り返り>

今回の「説明活動」は、生徒が活動に慣れてきたことから、キーワードカードを使用せずに説明を考える形にした。そしてその課題に、インフルエンザとノロウイルスを取り上げた。それは、生徒が病気をイメージしやすい、また罹患した経験がある生徒はその体験を説明に盛り込むことが可能であるからである。さらに、「説明活動」を通して、自分の生活を振り返りながら予防方法をイメージできるのではないだろうかと考えた。

実際の活動では、自分が罹患した時にノロウイルスは感染力が強いと医師から聞いたことを説明に加えるなど、伝え方の工夫が見られた。学習カードの振り返りには、自分が中学校3年生で進路を控えているという状況から、今の生活を見直して感染症予防に努めたいなど、学習したことを自分の生活に生かそうとしている記述が見られた。

<生徒が考えた説明の文章>

課題①：インフルエンザの予防対策

インフルエンザ

インフルエンザは、せきや、くしゃみから感染するので、マスクをする。

また、ドアノブなどからも感染するので、手洗いをしっかりする。

24.20

インフルエンザ

は冬に流行しやすい、なぜなら乾燥して菌が増えたり、呼吸の人口が狭い（つまり）呼吸器が弱くなるからと流行しやすい。予防対策として、手洗い、うがい、マスクの検気をして、空気をよめかえ、外にでるときはマスクをつける。

26.15
6

インフルエンザ

手洗い、うがいをし、部屋が乾燥しないように注意する。

家族などに感染者がいる場合は、マスクを着用し、(患者も)なるべく接触しないようにする！

もし、感染してしまっても症状が軽いうちに

休む 

21.32

インフルエンザ

インフルエンザの予防対策は、

- ・予防接種をする！
- ・人混みに行く時はマスクをする！
- ・外から帰ってきた時、何かを食べる時は手洗い！うがい！(消毒をするとうい)
- ・規則正しい生活
 - ・3食食べる！
 - ・睡眠をしっかりとる！
 - ・リフレッシュする時間をつくる！

抵抗力を強くしよう!!

3.9
Thank You

課題②：ノロウイルスの予防対策

ノロウイルス

対策

よく手洗い、うがいをし、

生食物は加熱処理をしてから食べるように心がける。

また、汚物に触らないようにする。

27.30

ノロウイルス

手洗い、うがいをていねいにやる。

マスク消毒

食材は、新鮮なうちに食べる

規則正しい生活をし、体の抵抗力をつける。

食器、調理器具の熱殺菌

7.33

ノロウイルス

ノロウイルスの感染源が

ノロウイルスに汚染された食品や水、感染者のおう吐物・ふん便なので、器具は消毒！

安全なものを食べ、感染者が出たら、マスク・手袋をし、対処することが、予防対策である(。3。0)!!



5.17

ノロウイルス

ノロウイルスは、とても感染力が強いです！家族が感染すると、大体その家族みんなうつるくらい強いです。

予防は、なるべくその人と接ばないで、過ごすこと。

7.14

8時間扱いの第6時間目 平成25年10月23日(水) 第3校時(10:25~11:15)		
本時の学習のねらい ≪思考・判断①≫ 健康な生活と疾病の予防について、学習したことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明することができるようにする。 ≪知識・理解④≫ 感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることについて、言ったり、書き出したりできるようにする。		
本時の評価内容と評価方法 ≪思考・判断①≫【学習カード・チラシ】 ≪知識・理解④≫【観察・学習カード】		
時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教える 15分	○前時の振り返りをする。 ○本時の学習内容を確認する。 【教師の説明】 【学習内容】 ・感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であること。	・前時の学習内容について、生徒が記入した学習カードから振り返りを簡潔に行う。 ・本時の学習内容を説明する。
	1 前時に学習したことを生かして、生活の場面における感染症予防対策を考える。 ○生活の一場面を映し出したスライドを見て、どのような感染症予防が必要なのか、その対策は、「感染源」「感染経路」「体の抵抗力」のどれに当たるかを考え、発表する。	・前時に学習した、感染症予防のためのキーワードを確認する。 ・スライドに画像等を用いることによって、生徒が生活の一場面を具体的にイメージできるようにする。 ・数名を指名する。 ・生徒の発表を受けて、具体的な説明を行う。
	【理解深化】 【課題】 これまでに学習した事を生かして、感染症予防を呼びかけるチラシをつくってみよう。	
	2 4~5名のグループで、チラシの内容等を話し合い作成する。 ○あらかじめ、個人で予習プリントに、チラシの構想を記入してくる。 ○ホワイトボードに話し合いで出てきたチラシのレイアウト案を記入していく。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><話し合いの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシで何を伝えたいのか。 ・伝えたい内容(キャッチコピー、伝える項目、メッセージ等) ・伝える方法(文章、図や表など) ・レイアウト <p style="text-align: right;">など</p> </div>	・各グループにホワイトボード、A4サイズのケント紙と上質紙、チラシの資料等を配布する。 ・今回のチラシづくりは、前時との2時間のまとめとして捉えて作成することを説明する。 ・チラシづくりの進め方を確認する。 ・前回のチラシづくりの様子から、「何」を伝えたいのかを焦点化すること、チラシを見る人の視点で、どのように伝えたらわかってもらえるかを考えてつくることを助言する。 ・話し合いがしっかりできるように、巡回しながら適宜助言するなど支援する。 ・全員がチラシづくりに関わることができるように、ホワイトボードにレイアウト案が書けたら、A4の上質紙をレイアウトのように

考 え さ せ る 35 分	<p>3 お互いのグループのチラシを見る。 ○席から移動して、お互いのグループのチラシを見て、感想を付箋に書き、チラシに貼る。</p>	<p>切って、その紙に各自で記事の下書きを書くように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図やグラフを使用する場合は、各グループに配付した資料から使用してよいこと、その他の資料については、プリンタで印刷して、用紙に貼り付けてよいことを説明する。 <p>《思考・判断①》 【観察・学習カード・チラシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシづくりが進まないグループには、伝えたいことを、どのような方法で伝えると、見る人に伝わりやすいかなど適宜助言を行うなど支援する。 ・チラシの内容とともに、内容の伝え方にも着目して見るように指示する。
	<p>【自己評価】</p> <p>4 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。 ○本時のまとめを行う。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。 <p>《知識・理解④》【観察・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。 ・学習カード回収後、特にわからなかったことを書いてある生徒に対しては、学習カードにコメントによる助言を行う。

<授業者による振り返り>

今回の「チラシづくり活動」は、前回の反省から、伝えたいことを焦点化すると、情報を選択しやすいこと、そして図や表を用いるなど伝え方を工夫すると、自分たちのメッセージを効果的に伝えることができることを説明してから活動に入った。

活動では、どのようなキャッチコピーやメッセージにすると、見る人を引き付け、伝えたいことを印象づけられるかなどの話し合いが行われていた。つくられたチラシは、図や表だけでなく、イラストが使用されるなどの工夫が見られた。

また、今回はお互いのチラシを見て、気付いたことを付箋に書いてチラシに貼る活動も行った。付箋の内容を見ると、チラシに書かれている内容への気づきよりも、見やすさなどのデザインに関する感想が多かった。次回は、チラシの記事を見て新たに気付いたことなどにも着目させたい。

<生徒がつくったチラシ>

課題：これまでに学習して事を生かして、感染症予防を呼びかけるチラシをつくってみよう。

冬はインフルエンザに注意!!

→ インフルエンザって??

普通の風邪と違って急に高熱がでたり、関節痛や全身がだるくなる。全身症状が長くおちめれる。

感染 約1-3日 → 発症 約1-3日 → 潜伏 約1週間 → 軽快

→ どうやって防ぐの??

方法① 手洗いうがい、マスクを着用 → 感染経路を断つ

方法② 予防接種をうける → 感染源を断つ

方法③ 栄養、規則正しい生活 → 抵抗力を高めて発病しないようにする

手洗いうがいでインフルエンザを予防しよう!!

インフルエンザは、

ドアのふき

や

せき

から体内へ.....

手洗いうがいをするだけでインフルエンザだけでなくいろいろな病気が予防できる!

手洗い

うがい

手洗いうがいはとても大切だよ!

体の抵抗力を高めよう!

規則正しい生活をしよう

風邪をひくおもな原因は体の抵抗力の低下によりウイルスから体を守れなくなるため風邪をひいてはったり病気になるてしまいます。

抵抗力を高めるにはどうしたらいいでしょう?

① 予防接種を受ける

② 栄養、規則正しい生活を送る

③ 手洗いうがい、マスクを着用

④ 運動をこまめに取る

⑤ 十分な睡眠をとる

インフルエンザ!!

インフルエンザに感染!?

感染したD君

感染したR君

感染したD君

感染したR君

人はみぞは感染したと気づかない人からどんどん同様に感染して行く。

予防の方法

★マスク手洗いうがいを徹底!

★抵抗力を高めよう。

⇒ そのためには...

- ・ 早寝・早起き 『生活習慣』
- ・ 一日三食キチンと 『大切!』
- ・ 予防接種
- ・ 適度な運動 など...

8時間扱いの第7時間目 平成25年10月25日(金) 第3校時(10:25~11:15)		
<p>本時の学習のねらい</p> <p>《関心・意欲・態度②》 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>《知識・理解⑤》 エイズや性感染症の要因や感染経路、その予防法について、言ったり、書き出したりできるようにする。</p>		
<p>本時の評価内容と評価方法</p> <p>《関心・意欲・態度②》【観察】 《知識・理解⑤》【観察・学習カード】</p>		
時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教える 25分	<p>○前時の振り返りをする。</p> <p>○本時の学習内容を確認する。</p> <p>【発問】 これらの表は、主な性感染症の動向を表したものである。この表から分かることを挙げてみよう。</p>	<p>・前時の学習内容と、作成したチラシについて話す。</p> <p>・本時のねらいを簡潔に説明する。</p>
	<p>○自分の考えを全体に発表する。</p> <p>予想される回答 【クラジミア】 男性より女性の数が多い。 20代の数が多い。 【エイズ】 毎年増え続けている。 エイズ患者よりもHIV感染者の増え方が急である。</p> <p>【教師の説明】 【学習内容】 ・性感染症の増加傾向とその低年齢化が社会問題になっていることから、その疾病概念や感染経路について理解できるようにする。また、予防方法を身に付ける必要があること。</p>	<p>・性器クラミジア感染症報告数のグラフと日本国内のHIV感染者とエイズ患者の報告数をスライドで見せる。</p> <p>・数名を指名する。</p> <p>・発問を通して、性感染症が自分たちにも身近な問題であることを理解させる。</p>
	<p>1 予習プリントと学習カードを使いながら教師の説明を聞く。</p>	<p>・説明の時に画像や動画を用いて、生徒が具体的にイメージを持つことができるようにする。</p>
	<p>【理解確認】 【確かめの問題】 ○次のことについて、学習したことを生かして説明してみよう。 ①性感染症の感染が拡大しやすいのはなぜでしょうか。「自覚症状」という言葉を使用して説明してみよう。 (説明の例) ・性感染症は、その特徴として、はっきりした症状が現れないことや潜伏期間があるため、本人が気づかずに感染したり、感染させられたりしてしまう。 ②性感染症の感染を予防する方法を「性的接触」という言葉を使用して説明してみよう。 (説明の例) ・感染の危険のある性的接触は行わない、コンドームを使用する。性感染症の不安や症状がある時は、パートナーと一緒に早く医療機関へ行き、検査や治療を受けることが大切である。</p>	

考えさせる 25分	<p>2 4、5人一組のグループを2つに分け（2人一組）、担当する問題を決めて、それぞれ、ホワイトボードに説明する内容をまとめる。</p> <p>○キーワードが書かれたカードを使ってホワイトボードに文章を書いて説明する。</p> <p>○お互いの説明を聞いたあと、ホワイトボードを交換して、必要に応じて補足を入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループにホワイトボード、ペン、キーワードが書かれた2種類のカードを配付する。 ・2人で協力して説明する内容を考えることを指示する。 ・これまでの同活動の様子から、どのように説明したら、初めて聞く人にも内容を理解してもらえるかというポイントを踏まえて考えるよう助言する。 <p>《関心・意欲・態度②》【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する内容がまとめられないグループには、学習したことを振り返ることを促すなど助言し、支援する。
	<p>3 自分たちが考えた説明を、クラス全体に発表する。（各問題1～2グループ程度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するグループを指名する。 ・発表後、必要に応じて、補足の説明を行う。
	<p>4 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。</p> <p>○本時のまとめを行う。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。 <p>《知識・理解⑤》【観察・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。 ・学習カード回収後、特にわからなかったことを書いてある生徒に対しては、学習カードにコメントによる助言を行う。

<授業者による振り返り>

本時は、性に関する部分を扱ったので、生徒がこれまでの授業のように積極的な活動ができるか心配であった。しかし、最初の発問で性感染症やエイズが、今の自分たちにとって身近な問題であることを感じたことで、関心を持って取り組むことができていた。

この自分たちにとって身近な問題であるという意識が、「説明活動」にも表れた。ただ課題について説明を考えるだけでなく、予習や教師の説明で習得した知識と、最初の発問で学んだ、性感染症やエイズが自分たちを含めた若い世代の問題であることを関連付けるなど、知識の深まりを感じるような説明が見られた。しかし、言葉の使い方によって、感染者や患者の人たちに対して、誤った認識を持つおそれがある説明があった。今回は、エイズの学習と「チラシづくり活動」を行うので、言葉の使い方による誤った認識について触れることで、正しい知識を持つことやチラシづくりにおいて正しい情報を伝えることの大切さを伝えていきたい。

<生徒が考えた説明の文章>

課題①：性感染症の感染が拡大しやすいのはなぜでしょうか。「自覚症状」という言葉を使用して説明してみよう。

感染拡大
27
30
感染したとしても、自覚症状がない
ので、治療せずに放置してしまうことが多い。
接触した人に気づかないうちに
たから 感染させてしまう。
心本

感染拡大
16
31
感染しても自覚症状がないので
気が付かずに他の人にどんどんうつがわ
感染が拡大していきまう。
ミ

感染拡大
5.17
自覚症状がなく、
治療せずに他の人に感染させてしまい、
感染拡大が起こる。('o')!!

感染拡大
11
13
自覚症状がないから、発見が遅くなる
感染が拡大していきまう。
放置しておくと男女とも不妊につな
がる。
N

課題②：性感染症の感染を予防する方法を「性的接触」という言葉を使用して説明してみよう。

感染予防
3.9
若い世代で感染症の人数が増えて
いるから、若いうちから性的接触
正しい知識を身に付けることが
大切!!
ほんでする
感染予防

感染予防
18/19
感染の危険のある性的接触
をしない。
正しい知識を身に
付ける。
正しく使う(コンドーム)

感染予防
22.29
感染を防ぐには
感染の危険のある性的接触をしない。
もし不安や症状がある時は、早く医療機関
で検査と治療を受ける。

感染予防
21.32
感染の危険のある性的接触
を不特定多数としない。(o-)
感染の可能性が大きい場合は、
必ずハートと一緒に早く医療機関
で検査治療を受けろ!
性感染症について考え、正しい知識を
身につけることが大切!!

8時間扱いの第8時間目 平成25年10月30日(水) 第3校時(10:25~11:15)		
本時の学習のねらい ≪思考・判断②≫ 健康な生活と疾病の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明できるようにする。 ≪知識・理解⑤≫ エイズや性感染症の要因や感染経路、その予防法について、言ったり、書き出したりできるようにする。		
本時の評価内容と評価方法 ≪思考・判断②≫【観察・学習カード・チラシ】 ≪知識・理解⑤≫【観察・学習カード】		
時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
教える 15分	○本時の学習内容を確認する。 【学習内容】 ・エイズの増加傾向とその低年齢化が社会問題になっていることから、その疾病概念や感染経路について理解できるようにする。また、予防方法を身に付ける必要があること。 1 前時に学習した、性感染症・エイズについて、感染を予防する方法を確認する。 ○HIV感染者やエイズ患者の生活の様子から、エイズやHIVの正しい知識と理解を持って生活することが自分や患者にとって大切であることを学習する。	・本時の学習内容を説明する。 ・前時の学習カードへの記述や理解確認で使用したホワイトボードの内容に触れながら、本時の学習内容に入っていく。 ・前時に学習した、性感染症・エイズの感染予防の方法をスライドで確認する。 ・エイズについて、ライアン・ホワイト少年の事例を用いて説明する。 ・生徒の考えを聞きながら説明を進める。 ・説明の時に画像を用いて、生徒が具体的にイメージを持つことができるようにする。
	【理解深化】 【課題】 ○学習した事を生かして、「性感染症の恐ろしさ」を伝えるチラシを作ってみよう。 2 4～5名のグループで、チラシの内容等を話し合い作成する。 ○あらかじめ、個人で予習プリントに、チラシの構想を記入してくる。 ○ホワイトボードに話し合いで出てきたチラシのレイアウト案を記入していく。 <話し合いの内容> ・チラシで何を伝えたいのか。 ・伝えたい内容(キャッチコピー、伝える項目、メッセージ等) ・伝える方法(文章、図や表など) ・レイアウト など	・各グループにホワイトボード、A4サイズのケント紙と上質紙、チラシの資料等を配付する。 ・今回のチラシづくりは、前時との2時間のまとめとして捉えて作成することを説明する。 ・チラシづくりの進め方を確認する。 ・前回のチラシづくりの様子から、予習プリントに行ってきたチラシの下書きを活用すること、チラシを見る人の視点で、どのように伝えたらわかってもらえるかを考えることを助言する。 ・全員がチラシづくりに関わることができるように、ホワイトボードにレイアウト案が書けたら、A4の上質紙をレイアウトのように切って、その紙に各自で記事を書くように指示する。

考 え さ せ る 35 分	3 お互いのグループのチラシを見る。 ○席を移動して、お互いのグループのチラシを見て、感想を付箋に書き、チラシに貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ・図やグラフを使用する場合は、各グループに配付した資料から使用してよいこと、その他の資料については、プリンタで印刷して、用紙に貼り付けてよいことを説明する。 ・話し合いがしっかりできるように、巡回しながら適宜助言するなど支援する。 ≪思考・判断②≫ 【観察・学習カード・チラシ】 <ul style="list-style-type: none"> ・チラシづくりが進まないグループには、伝えたいことを、どのような方法で伝えると、見る人に伝わりやすいかなど適宜助言を行うなど支援する。 ・チラシの内容とともに、内容の伝え方にも着目して見るように指示する。
	4 本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったこと、自己評価を学習カードに記入する。 ○本時のまとめを行う。 ○次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の学習内容の確認、授業を通してわかったこと、わからなかったことを記入させる。 ≪知識・理解⑤≫ 【観察・学習カード】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにわかったこと、わからなかったことを書けていない生徒には、学習したことを振り返らせるなど助言し、支援する。 ・特に、わからなかったことを書いてある生徒に対しては、学習カードにコメントによるアドバイスを行う。

<授業者による振り返り>

前時の「説明活動」で出てきた反省点でもある、言葉の使い方による誤った認識について、本時において、エイズを扱う中で正しい知識を持つことが正しい理解につながることを説明した。生徒は、前時からのつながりで、正しい知識を持つ大切さをさらに強く感じていたようだ。

「チラシづくり活動」では、伝える側として正しい知識を伝えることの大切さに加えて、見る人にも正しい知識を持つことの大切さを訴えているものが多かった。また伝えたいことを焦点化し、見る人を引き付ける効果をねらったキャッチコピーやメッセージの工夫が見られた。さらに、記事の内容も図や表を使うことはもちろん、キーワード化して見る人の印象に残す効果を図るなどの工夫も見られ、学習した知識を自分の中で整理し、伝えたいことによって選択している様子が見られた。

<生徒がつくったチラシ>

課題：学習した事を生かして、「性感染症の恐ろしさ」を伝えるチラシを作ってみよう。

HIVについて正しい知識を持つ!

1 HIVとは?
 HIVとはエイズの原因となるウイルス。
 体内に入ると免疫力を低下させる。だが、感染しているのに気づきにくい
 ため性的接触や母子感染や血液によって他人にうつり可能性がある。

➔ 予防法・対処法

- ① 性的接触をさげ
- ② 感染した場合やうたがいがあるときは
 パートナーと一緒に早期の検査と治療をうけ

2 私たちがすべきことは?

大切なのは私たちが HIV・エイズについて正しい知識を持つこと。
 HIVは、ただの接触（体にくっつくこと）やくしゃみやせきなどの
 飛沫感染しない。
 また、正しい知識をもって HIV感染者を差別したりは
 いけない!!

↓

**正しい知識を持つことは
 予防や感染者に対して理解することにもつながる**

繰り返される感染?

一緒に治療しようね

自分だけ治療しても、
 また、パートナーから感染してしまう。
 治療に行く時はパートナーも
一緒に病院へ!

SEXUAL PARTNER

あなたは大丈夫?

これをご覧ください

日本国内のHIV感染者とエイズ患者の報告数
 (その年に新しく報告された人数) 年
厚生労働省「HIV感染症の発生状況」より

感染者は誰か?

HIVとは、ウイルスのこと。エイズとは、HIVウイルスによって
 免疫力が低下し、いろいろな病気にかかっている状態のこと。その
 一回もかかると、HIV感染者は変換して、
 かなり多くのエイズ患者が毎年おこしている。

感染拡大を防げ!

感染者の拡大の恐しさ

感染の危険のある
 性的接触をさげよう!

対策

- ・感染の危険のある性的接触をしない
- ・コンドームを使用する。

感染者を減らそう!

4 検証授業の結果と考察

研究の主題に迫るため、検証授業から得られたデータを基に、設定した分析の視点に沿って分析し、「教えて考えさせる授業」を行うことによって、理解を深めることができたか、そして理解を深めていく上で、「説明活動」や「チラシづくり活動」が有効であるかについて考察した。なお、分析・考察を進める上で、文中に使用した図表の生徒数については表3-1のとおりである。また、表中の生徒の記述内容については、できる限り生徒が記述したままの表現で載せることとした。

表3-1 文中に使用した生徒数

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
生徒数	33名	32名	34名	32名	33名	33名	33名	33名
事前アンケート 32名			事後アンケート① 33名			事後アンケート② 32名		

(1) 「教えて考えさせる授業」についての有効性

ア 予習は有効であったか

図3-1は、事後アンケート①の「予習プリントを行うと、授業の見通しを持つことができるため、安心して授業に参加できた」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4段階で記入したものである。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒は、合わせて97%であった。

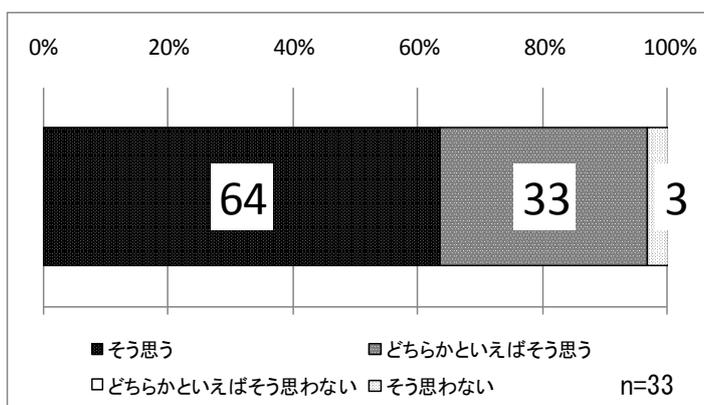


図3-1 「予習プリントを行うと、授業の見通しを持つことができるため、安心して授業に参加できた」についての回答

図3-2は、事後アンケート①の「予習プリントを行って、学習内容に対して興味や関心が湧いてきた」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4段階で記入したものである。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒は、合わせて73%であった。

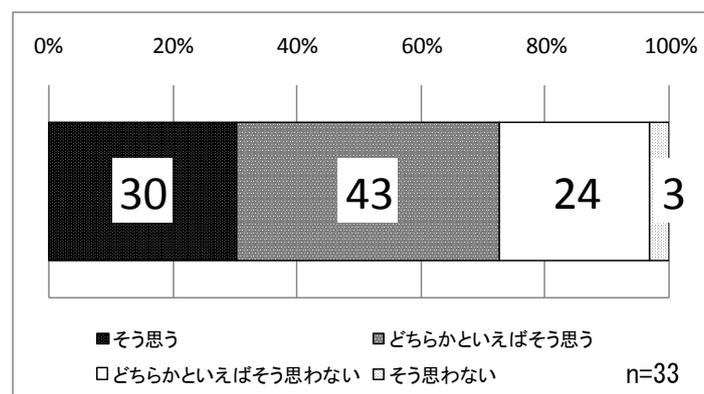


図3-2 「予習プリントを行って、学習内容に対して興味や関心が湧いてきた」についての回答

図3-3は、事後アンケート①の「予習を事前にやってあると、先生の説明が分かった」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4段階で記入したものである。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒は、合わせて97%であった。

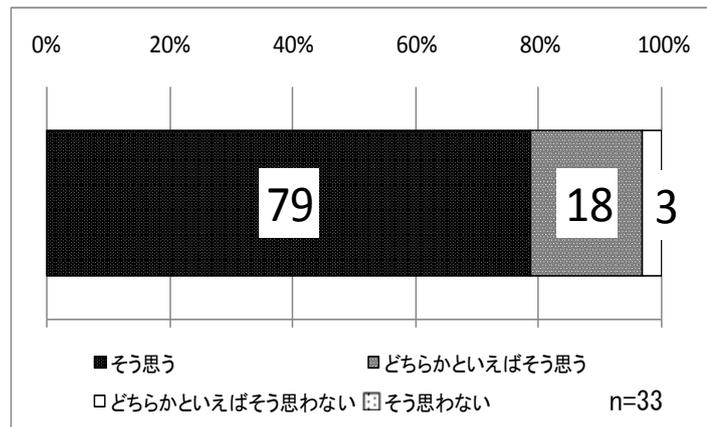


図3-3 「予習をやってあると、先生の説明が分かった」についての回答

表3-2は、事後アンケート①の「予習を行った感想」の記述から、予習の有効性に関する記述を抜粋したものである。

表3-2 予習の有効性に関する記述内容（抜粋）

生徒の記述全体では、肯定的な記述は94%、否定的な記述は6%であった。

- 最初は何もくさいと思っていたけど、やっていくうちに、授業の内容を事前に知れて、準備ができて良かったと思う。
- 授業をいきなりはじめないで、自分で予習を行って授業に参加することができたので、授業の内容をととても理解しやすかったです。
- 授業で何をすることがわかってよかったし、プリントをしっかりよめば授業についていくことができたので良かったです。また、興味や関心をもつこともできたので次の授業が楽しくなってきました。
- 予習プリントがあるので次にやる授業の内容が分かって、やりやすかった。
- 自分でまず、予習をして後から詳しく教わると理解しやすいし、授業をしていても分からないと感じると時が減った。
- 予習プリントを行うことで、基本的な知識が身に付くので、授業では基本の確認だけで、それ以上の知識をより多く頭に入れられるので良かったと思います。
- 予習を普段あんまりしないので少し大変でしたが、予習をすることで授業の内容がよく頭に入ってきて、とてもいいシステムだと思った。
- 大変なこともあったけど、次の授業の内容が大体わかったので、集中して聞くことができた。
- あまり予習はやらないので、次の授業の内容がわかるので、やってみてすごく良かったです。予習をやって家と授業で2回やるから予習・復習としてすごくいいし、授業がよりわかりやすくなる。

(1) ア 「予習は有効であったか」の結果と考察

今回の保健の授業において、予習プリントを行うことによって、授業の見通しを持つことができるため、安心して授業に参加できたと感じた生徒が全体の97%を占めた。(図3-1)

予習プリントを行うことによって、授業の見通しを持つことができるため、安心して授業に参加できたと感じた理由として、「授業をいきなりはじめないで、自分で予習を行って授業に参加することができたので、授業の内容をととても理解しやすかった。」「自分でまず、予習をして後から詳しく教わると理解しやすいし、授業をしていても分からないと感じると時が

減った。」(表3-2)などの記述があった。これらのことから、生徒は学習内容に対して、学びたい、理解したいという意欲を持っている一方で、授業の場面において学習していることが理解できない状態になってしまうことへの不安を持っていることが考えられる。特に保健の学習内容は、その授業と次の授業で扱う内容が大きく変わることもあり、教師がその授業終了時に次の授業についてアナウンスしているものの、生徒にとっては、見通しを持ちづらかったと思われる。今回、予習プリントを行うことによって、生徒は次の授業の学習内容を教師によるアナウンスだけの時よりもより具体的に掴むことができ、それが学習の見通しとなって、授業への不安の軽減につながったと推察できる。

また、予習プリントを行って、学習内容に対して興味や関心が湧いてきたと感じた生徒が全体の73%を占めた。(図3-2)

この結果から、予習プリントを行うことにより、事前に用語や現象などをあらかじめ、ぼんやりと掴むことができるため、そこから興味や関心を抱きやすい状態がつけられていたことが考えられる。

さらに、予習プリントをやっていると、先生の説明が分かったと感じた生徒が全体の97%を占めている。(図3-3)

この結果から、予習プリントを行っていない時の授業では、生徒の学習の作業としては、用語などを覚えることと併せて、その理由などを同時に学ばなければならない状態であった。それに対して、予習プリントを行うことによって、用語や現象などをあらかじめ、ぼんやりと掴むことができている。そのため、授業では、その用語や現象の理由の部分に集中して学ぶことができるため、より深い理解につながっているのではないかと考えられる。

これらのことから、予習プリントを行うことは有効であったと推察できる。

イ 教師の説明は、わかりやすかったか

図3-4は、学習カードの「教師の説明はわかりやすかったですか」について、「思う」、「どちらかといえば思う」、「どちらかといえば思わない」、「思わない」、の4段階で記入したものである。「思う」、「どちらかといえば思う」の肯定的な回答をした生徒は、3時間目を除いて100%であった。

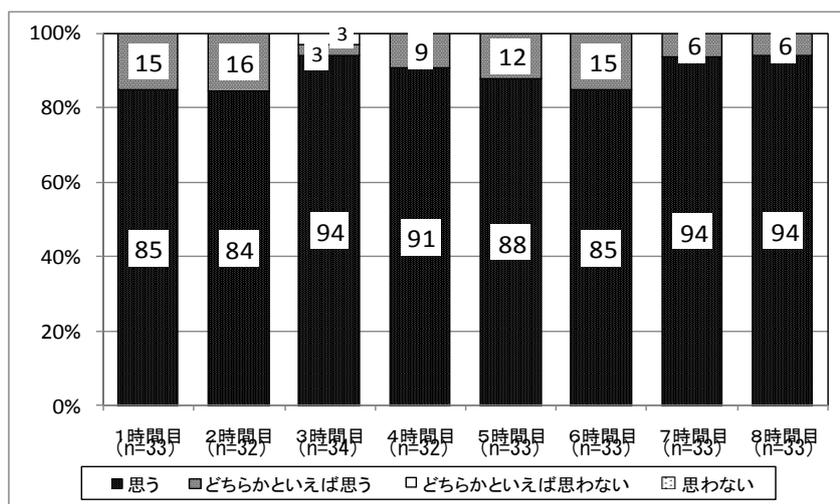


図3-4 「教師の説明はわかりやすかったですか」についての回答

表3-3は、事後アンケート①の「教師の説明の感想」の記述を抜粋したものである。

表3-3 教師の説明に関する記述内容(抜粋)

<p>すべての生徒から、教師の説明に対して肯定的な記述が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none">○写真や動画を使っているから、わかりやすかったです。言葉だけだとあまり印象にのこらないからプレゼンテーションソフトを使って授業をやったら大切な言葉がおぼえられるようになりました。○プレゼンテーションソフトで、図や写真があつて、より分かりやすかったです。特に動画は、普通の授業ではつかわれないので、より深く学習できましたと思います。○色々と説明の間に質問を多くするように授業していたと思うのでクラスみんなが授業に参加出来たと思う。○予習プリントを見ながら、説明を聞けるし、声だけでなく画面でかくにんしながらできるので、ノートにまとめやすかつたし、分かりやすかつた。○映像とか画像、図などがあつて、おもしろく、わかりやすかつた。普通の授業よりも関心をもてたと思う。○黒板に書く時間が省かれるので、より多くの内容のつまったものになったので、メモをまとめるのは大変でしたが、要点をまとめるようにできるようになりました。

(1) イ 「教師の説明はわかりやすかつたか」の結果と考察

今回の保健の授業において、教師の説明はわかりやすかつたと感じた生徒が3時間目を除いて100%であつた。(図3-4)

その理由として、「映像とか画像、図などがあつて、おもしろく、わかりやすかつた。普通の授業よりも関心をもてたと思う。」、「プレゼンテーションソフトで、図や写真があつて、より分かりやすかつたです。特に動画は、普通の授業ではつかわれないので、より深く学習できましたと思います。」、「色々と説明の間に質問を多くするように授業していたと思うのでクラスみんなが授業に参加出来たと思う。」(表3-3)などの記述があつた。

今回の検証授業では、教師からの説明の場面はすべてプレゼンテーションソフトを活用して画像や動画を用いて行つた。視覚に訴えることで、生徒の興味や関心を引き出し、また生徒は用語や現象などを画像や動画などにより、板書のみの時よりも、さらに具体的なイメージを持つことができたと考えられる。

また、説明ではプレゼンテーションソフトのスライドの内容を予習プリントの内容とリンクさせ、さらに説明を行いながら、予習プリントで行つたところについて、生徒が答えながら進めていく形にした。これによって生徒は、予習プリントで行つてきたところの確認と同時に、予習した知識に対して具体的な意味付けがスムーズに行われ、知識の獲得につながつていたと考えられ、このことから、先生からの説明は有効であつたことが推察できる。



ウ 理解確認ができたか

図3-5は、1・2・3・5・7時間目で行った、ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」を、学習カードの自己評価で「確かめの問題について、今回の授業で得られた知識を生かして、仲間に説明することができましたか」という項目について、「思う」、「どちらかといえば思う」、「どちらかといえば思わない」、「思わない」の4段階で記入したものである。1時間目において、「思う」と回答した生徒は45%である。単元が進むにつれてその割合は増加し、7時間目は81%であった。

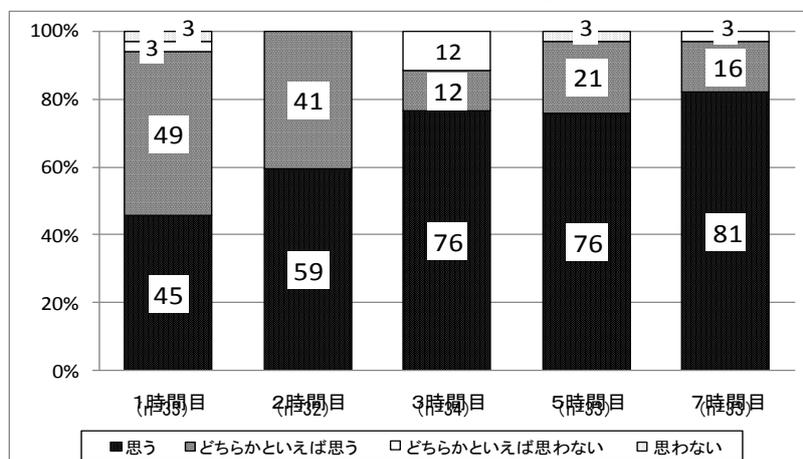


図3-5 「確かめの問題について、今回の授業で得られた知識を生かして、仲間に説明することができましたか」についての回答

(1) ウ 「理解確認ができたか」の結果と考察

今回の授業では、予習や教師の説明で学習したことの理解確認の方法として、「説明活動」を行った。

「説明活動」で、授業で得られた知識を生かして仲間に説明できたと強く感じている生徒は、1時間目の45%から単元が進むにつれて増加し、7時間目では81%になった。(図3-5)

単元が進むにつれて増加している理由として、生徒が活動内容を理解してきたことが考えられる。説明の文章を考えることで手一杯の状態から、相手にわかりやすく説明するための知識(言葉)の選択や情報の量などを、自分で考えたり仲間と意見交換したりなど、生徒の意識が「活動方法を理解すること」から、「分かりやすい説明を行うこと」に移っていったのではないだろうか。そして、単元が進むにつれて、授業で得られた知識を生かして仲間に説明することができたと実感した生徒が増加していったことが考えられる。

これらのことから、生徒は「説明活動」を通して、理解確認ができていたと考えられる。



エ 理解深化ができたか

図3-6は、4・6・8時間目で行った、不特定の相手への「チラシづくり活動」を、学習カードの自己評価で「チラシづくりにおいて、仲間の意見を聞き、自分の考えが深まることができましたか」という項目について、「思う」、「どちらかといえば思う」、「どちらかといえば思わない」、「思わない」の4段階で記入したものである。

初めて「チラシづくり活動」を行った4時間目において、「思う」と回答した生徒は63%であったが、8時間目はその割合が88%に増加した。

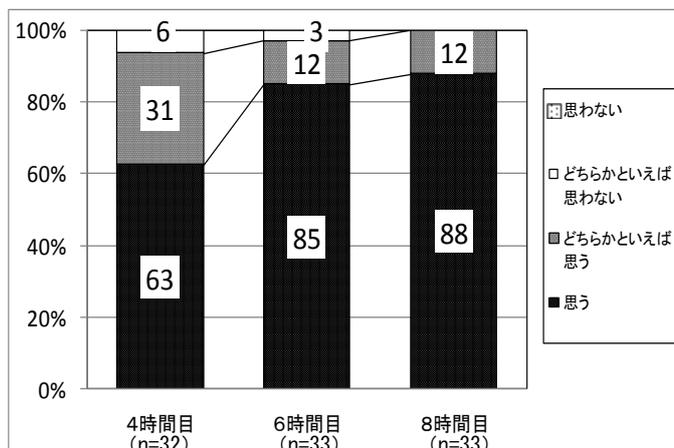


図3-6 「チラシづくりにおいて、仲間の意見を聞き、自分の考えが深まることができましたか」についての回答

(1) エ 「理解深化ができたか」の結果と考察

今回の授業では、4人のグループで「チラシづくり活動」を行い、獲得した知識を総合的に活用することで理解深化を図ることを考えた。

「チラシづくり活動」において、仲間の意見を聞き、自分の考えが深まることがあったと強く感じた生徒は、4時間目の63%から、6時間目は85%、8時間目は88%と回数を重ねるごとに増加した。(図3-6) 増加した理由として、チラシづくりの進め方を理解したことが考えられる。

4時間目は、活動自体が初めてであり、また、「教師の説明」が長くなってしまったことで、十分な活動時間を確保できなかったことが要因であると考えられる。そのため、意見交換などが活発にできず、生徒は十分に自分の考えを深めることができなかつたと感じていたと考えられる。また、自分たちが考えたキャッチコピーを、どのように記事で表現すると、見る人に伝わるかについても分からないため、話し合いなどの意見交換が進まなかつたことも考えられる。生徒たちのチラシを見ると、学習したことをそのまま抜き出して書き連ねているものや、チラシが完成していないグループが見られた。

そこで、6時間目では、『何』を伝えたいのか、『何』の部分をも具体的にすること。」「チラシに情報を多く入れすぎると、かえって伝わりにくくなることもあること。」「長い文章で説明するよりも、図や表を活用することで視覚に訴えて伝えた方が分かりやすいことがあること。」をアドバイスした。これによって生徒は、チラシづくりの進め方を理解し、説明活動同様、生徒の意識は、「活動方法を理解することから、「見る人に伝わるチラシをつくること」に移り、話し合いが活発に行われ始めたと考えられる。その結果、キャッチコピーの工夫や説明に図や表を用いたチラシが見られ始め、8時間目では、さらに多くのチラシでこのような工夫が見られた。

これらのことから、生徒は「チラシづくり活動」において、仲間との意見交換や他のグループのチラシを見ることを通して多様な考えに触れたり、新たな発見をしたりすることができた。また、わかりやすいチラシにするための工夫を通して理解深化を図ることができていたと考えられる。

オ 学習を振り返り、理解状態を自己診断できたか

図3-7は、学習カードの自己評価について、「記入している生徒」と「記入していない生徒」の割合を示したものである。「記入している」生徒は、すべての時間において、100%であった。

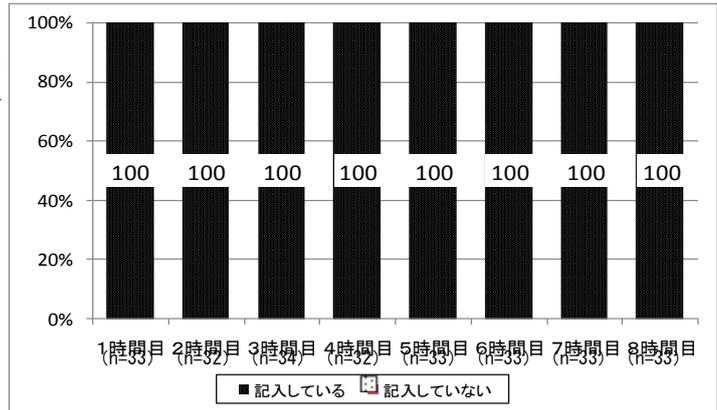


図3-7 学習カードの自己評価への記入状況

図3-8は、学習カードの自己評価の「わかったこと・わからなかったこと」の欄に、授業でわかったことのみを記入している生徒、わからなかったことのみを記入している生徒、両方とも記入している生徒のそれぞれの割合を示したものである。

わかったことを記入している生徒は、わかったことのみを記入している生徒と両方とも記入している生徒と合わせて、毎時間97%以上の記入が見られた。また、わからなかったことを記入している生徒は、同様に合わせて、毎時間6%以上の生徒の記入が見られ、一番高い数値としては、3時間目の44%であった。

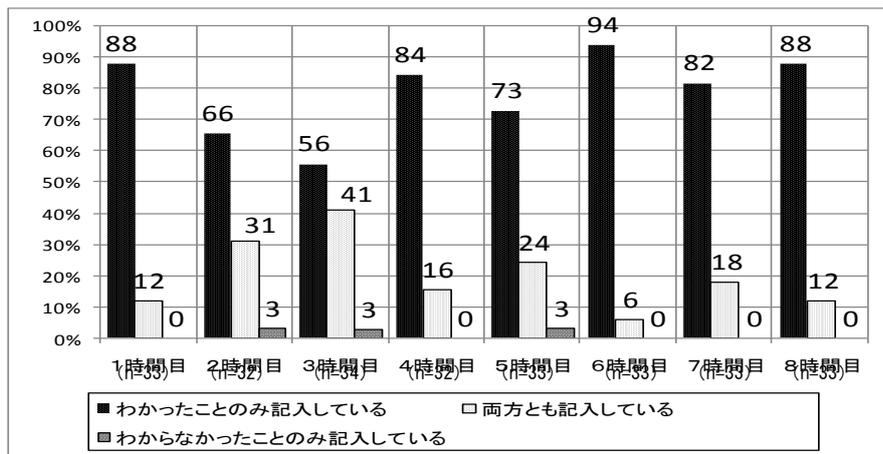


図3-8 学習カードの自己評価の記入内容の割合

表3-4は、学習カードの自己評価でわからなかったことを記述した生徒について、その記述内容を「その時間の学習内容についてわからなかったこと」、「その時間の学習から、新たに生じた疑問」に分けた人数を表にしたものである。多くの生徒が、疑問に思ったことを記述していた。

表3-4 学習カードの自己評価でわからなかったことを記入した生徒の記述内容の分類

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
その時間の学習内容についてわからなかったことを記述している生徒数	0	0	0	0	2	0	1	0
疑問に思ったことを記述している生徒数	4	11	15	5	7	2	5	4
n値	4	11	15	5	9	2	6	4

表3-5は、学習カードの自己評価の「わかったこと」、「わからなかったこと」の欄に、授業でわかったことや知ったこと、わからなかったことの具体的な記述を抜粋したものである。

表3-5 学習カードの自己評価への「わかったこと・わからなかったこと」の具体的な記述内容（抜粋）

<p>「わかったこと」の記述</p> <p><薬物乱用と健康></p> <ul style="list-style-type: none"> ○薬物に手を出したら、やめた後も一生、フラッシュバックと付き合っていかなければならないことがわかりました。 ○幻覚や体への影響は何度も薬物を使用した人に現れるものだったけど、一回でも薬物を乱用すると急性中毒で亡くなってしまうことがあるとわかった。 ○薬物をやめた人でも、フラッシュバックとしてあらわれること。 ○今までやった飲酒や喫煙、薬物乱用全部同じように体に悪くて依存性が高い。 <p><感染症とその予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ○予防することの重要性を知った。規則正しい生活で、十分に防ぐことができるとわかった。 ○規則正しい生活をすると抵抗力が高まる。 ○感染の条件は、環境と主体が関係するんだと知りました。 ○なるべく感染症にかからないためには、感染源、感染経路、体の抵抗力をそれぞれに対策をして生活すると良い。 ○「感染源」「経路」「体の抵抗力」それぞれ多くの予防法がある。 <p><性感染症とその予防/エイズ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○性感染症は気づきにくく、危険な病気である。よく考えないと、赤ちゃんとか、将来に影響がある ○正しい知識を身に付けることで、性的接触を防ぐことができる。パートナーと一緒に早く検査や治療を受けること。 ○性感染症は私たち若い世代に身近で将来の子供たちにも影響を及ぼす重大な問題であり、性的接触をさげたり知識をつけることが大切だということがわかった。 ○自分だけ治療してもパートナーと行かないとまた繰り返されてしまう。 ○H I Vは性的接触や血液からでしか感染しない事がわかった。 <p>「わからなかったこと」の記述</p> <p><薬物乱用と健康></p> <ul style="list-style-type: none"> ○たばこやお酒も含めて、体に悪影響を与えるのになぜ存在するのか。 ○薬物の種類や名称が多くてわからなかった。 ○なんで薬物は法律で禁止されているのに作っているのだろう。 ○薬物の種類や名称が多くてわからなかった。 <p><感染症とその予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ○インフルエンザウイルスをなくすためには、湿度を上げるといいというけど、何%ぐらいまで上げると効果があるのか。 ○くわしい感染経路などが覚えきれなかった。 <p><性感染症とその予防/エイズ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○性感染症の種類が覚えきれなかった。 ○感染源となった人物はどこから感染したのだろうか？ ○H I Vは血液で感染するのに、なんで感染者の血を吸った蚊にさされるのは感染しないのか？感染者の血液が体に入るかも知れないのに…
--

(1) オ 「学習を振り返り、理解状態を自己診断できたか」の結果と考察

本研究では、毎時間の終了時に生徒が授業を振り返り、「何がわかったのか」、「何がわからなかったのか」など、自分自身の理解状態を診断することを目的として、自己評価を行った。

学習カードの自己評価への記入状況は、すべての時間において 100%であり、生徒は毎時間、自己評価を通して授業の振り返りを行っていた。(図 3-7)

学習カードの自己評価の「わかったこと・わからなかったこと」の欄への記入内容の割合を見ると、わかったことのみを記入している生徒が多く、次に「わかったこと」、「わからなかったこと」の両方を記入している生徒が多かった。(図 3-8) また、わからなかったことを記入している生徒の記述内容は、学習内容についてわからなかったことよりも、学習したことから、新たに出てきた疑問をわからなかったこととして記している生徒が多かった。(表 3-4)

「わかったこと」の具体的な記述内容は、「薬物をやめた人でも、フラッシュバックとしてあらわれること。」、「なるべく感染症にかからないためには、感染源、感染経路、体の抵抗力をそれぞれに対策して生活すると良い。」、「正しい知識を身に付けることで、性的接触を防ぐことができる。パートナーと一緒に早く検査や治療を受けること。」などの記述がみられた。(表 3-5)

また、「わからなかったこと」の具体的な記述内容は、「なんで薬物は法律で禁止されているのに作っているのだろう。」、「インフルエンザウイルスをなくすためには、湿度を上げるといいというけど、何%ぐらいまで上げると効果があるのか。」(表 3-5) など、学習したことから新たに出てきた疑問が見られた。これらの疑問については、教師が学習カードを見る時に、コメントを記入したり、多くの生徒が疑問に感じていた内容については、次の授業の最初に取り上げたりした。

このことから、生徒は、自己評価で学習を振り返ることによって、さらに学習を進展させ、理解をより深めようとしていると考えられる。

また「薬物の種類や名称が多くてわからなかった。」、「くわしい感染経路などが覚えきれなかった。」、「性感染症の種類が覚えきれなかった。」など、わからなかったことの記述も見られた。(表 3-5) これらについても疑問同様、学習カードにコメントを記入した。同時に、教師側が教える内容を精選することやキーワード化するなどの改善が必要であると感じた。

これらの結果から、生徒は自己評価を通して、授業における自分自身の取り組み状況を振り返っていると考えられる。また、わかったことやわからなかったことを具体的に記述したことによって、自分の理解状態を診断していることが見られた。このことから生徒は、自己評価により、自己の学習を振り返り、理解状態を自己診断できていたと推察される。



カ 「教えて考えさせる授業」の授業展開は有効であったか

図3-9は、事後アンケート①の「今回の授業の進め方の感想を書いてください」について、その記述内容を「肯定的」、「どちらでもない」、「否定的」の3つに分け、その割合を示したものである。97%の生徒が、「教えて考えさせる授業」の授業展開について、肯定的な感想を記述していた。

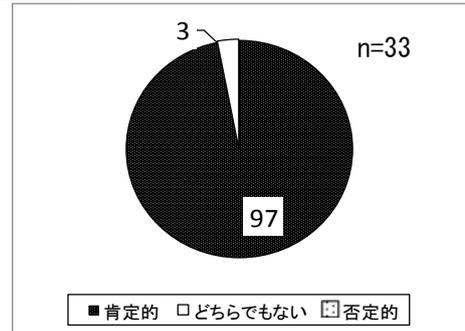


図3-9 「今回の授業の進め方の感想」の記述内容別の割合

表3-6は、事後アンケートの「今回の授業の進め方の感想」から、「教えて考えさせる授業」の授業展開について肯定的な記述を抜粋したものである。

表3-6 「教えて考えさせる授業」の授業展開について肯定的な記述内容（抜粋）

- 聞くだけの授業だと、頭に入らなかったり書くのに精一杯な部分もあるけど、説明を聞いて、その後もう一度確認することで、頭に残りやすくなりました。
- 先生から、いろいろな話をうけて、各々自分の意見をもつことができたので、ホワイトボードやチラシをつくったときに、足りていないところをしてきできているので良かったです。
- 先生が話している時はひたすらメモをとり内容を理解していた。その後に自分たちで活動すると、先生が言っていたことの内容が深く理解するだけでなく、新たに考えや疑問が出てきた。
- 説明と活動する場面が分けられていてすごくやりやすかった。
- 先生に教えてもらった後に、自分たちで考えることによっていろいろな意見が出るので良かったです。
- 先生の説明をきいて内容を理解し、ホワイトボードで自分の考えを出したことで、よく頭に入り、充実感がある授業だったと思いました。
- いつもやっている保健の授業よりも活動しやすかった。
- 先生の話を聞くだけでなく、自分たちで考える時間がとってあったので授業の内容を深く考えて理解することができた。
- 自分たちで活動するというのが新鮮で楽しかった。活動することによって、深く理解することができた。
- 普段なら教科書を読む→板書だったけど、先生からの説明を聞いて、それらをグループで考えることはたくさんの意見が出て、自分の考えをより深くすることができた。
- 毎回、具体的な活動があったので、次第になれていくことができた。きっちりと「教わる」「考える」が分かれていたので、考えるとき集中でき、とても頭に残っていた。

(1) カ 『教えて考えさせる授業』の授業展開は有効であったか』の結果と考察

今回の保健の授業において、市川の提唱する「教えて考えさせる授業」の授業展開を用いて授業を展開した。生徒にはこのモデルを、「『先生が教える場面』と『生徒が考える場面』が明確に分かれている授業」と説明した。

今回の授業の進め方について、事後アンケートの授業の進め方について感想の記述内容から97%の生徒が肯定的な感想を記入していた。(図3-9)

その感想では、「説明と活動する場面が分けられていてすごくやりやすかった。」「先生の説

明をきいて内容を理解し、ホワイトボードで自分の考えを出したことで、よく頭に入り、充実感がある授業だったと思いました。」「先生に教えてもらった後に、自分たちで考えることによっていろいろな意見が出るので良かったです。」「先生の話聞くだけではなく、自分たちで考える時間がとってあったので授業の内容を深く考えて理解することができた。」などの記述があった。(表3-6)

生徒にとっては、「先生が教える場面」と「生徒が考える場面」が明確になったことで、活動しやすかったことが考えられる。また、教師の説明を一方向的に聞き、板書をノートに写すだけの授業ではなく、学習したことを自分で使ってみると、「活動」があることは生徒にとって、「授業に参加している」、「学習している」という実感を持つことができ、これらことから、「教えて考えさせる授業」の授業展開は有効であったと考えられる。

(1) 教えて考えさせる授業についての有効性のまとめ

今回の授業では、理解を深めることをねらいとして、「教えて考えさせる授業」の「予習」、「教師の説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の授業展開を活用した。

「教える」場面では、生徒は「予習」で授業の見通しを持つとともに、学習内容については、市川の言う「生わかり状態」になったことにより、安心して授業に参加することができたと考えられる。そして、この「安心」を持つことができたことは、生徒の学習意欲の向上にもつながっていると考えられる。

また「教師の説明」では、プレゼンテーションソフトを使用し、予習プリントとスライドをリンクさせた説明により、ただ説明を聞くだけでなく、予習で行ってきたことを確認しながら、さらに画像や動画を用いたことで学習内容の具体的なイメージを持つことができるなど、生徒の知識の獲得がスムーズに行われたと考えられる。

「考えさせる」場面の「理解確認」では、『説明活動』の回数を重ねるごとに、生徒の意識が「活動方法を理解すること」から、「分かりやすい説明を行うこと」に移っていったことが考えられる。その結果、生徒は、単元が進むにつれて、「教える」場面で獲得した知識を活用して、仲間に説明することができたと実感し、「理解確認」が図られたと考えられる。

「理解深化」についても、『チラシづくり活動』の回数を重ねるごとに、生徒の意識が「活動方法を理解すること」から、「見る人に伝わるチラシをつくること」に移っていったことが考えられる。この意識の変化によって、話し合い活動やわかりやすいチラシにするための工夫が盛んに行われ、その結果、多様な考えに触れたり、新たな発見をしたりなど、理解が深められたと考えられる。

「自己評価」は、自己の学習を振り返り、わかったことやわからなかったことを具体的に記述することで、理解状態を診断することができていたと考えられる。さらに、わからなかったことを記述している生徒は、学習したことを理解した上で、新たに生じた疑問を記述するなど、自己評価を通して、より理解を深めようという意欲が見られた。

これらのことを総合すると、「教えて考えさせる授業」は、「教える」場面と「考えさせる」場面が分かれていることにより、生徒にとって、授業における自分の行動が明確になったことが考えられる。また、授業の見通しを持たせる場面や理解を確認する場面など、生徒の理解を保障しながら理解深化に発展していく授業展開であると感じられる。このことから「教えて考えさせる授業」は、生徒が学習内容を理解するだけでなく、深めることにも有効であると推察される。

(2)「説明活動」の有効性

ア ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」は有効であったか

図3-10は、事後アンケート

①の「二人で協力して説明することは、思考を深めることにつながった」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4段階で記入したものである。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒は、合わせて94%であった。

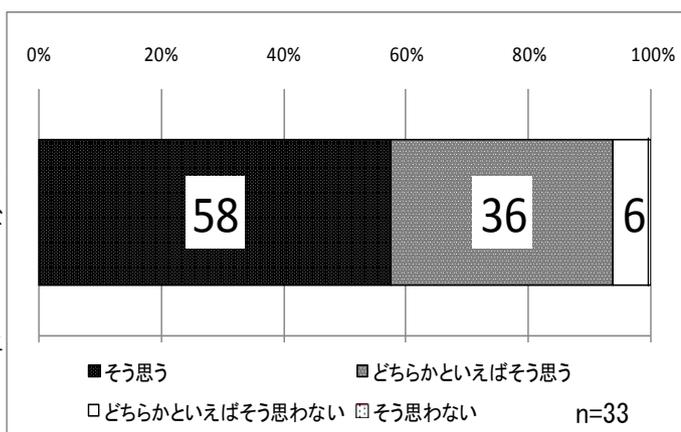


図3-10 「二人で協力して説明することは、思考を深めることにつながった」についての回答

図3-11は、事後アンケート①

の「仲間の説明を聞くことで、理解が深まった」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4段階で記入したものである。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒は、合わせて91%であった。

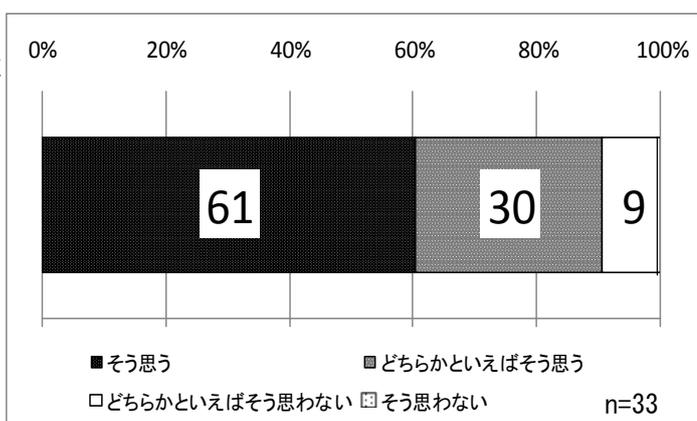


図3-11 「仲間の説明を聞くことで、理解が深まった」についての回答

表3-7は、事後アンケートの「ホワイトボードを使用した活動の感想」から、その有効性についての記述を抜粋したものである。

表3-7 ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」の有効性に関する記述内容

97%の生徒から、「説明活動」を行ったことに対して肯定的な記述が見られた。

- 仲間の考えも聞けたし、自分の考えを相手に伝えることができた。
- 二人で書くので、自分が間違った解釈をしていたら、正してもらえるし、自分では考えられなかった事や感じられなかった事を知ることができ、理解が深まった。
- 自分の出した意見に他の人がつけ足してくれたので、自分の説明でまだ相手に伝えるためには不十分なところを1つでも少なくできたと思います。
- 学習した内容をホワイトボードにまとめるために、どうしたら相手に伝わるかなど授業の内容を思いだしながら学べ、友達と意見を出しあうことができたので学習した内容について考えを深めることができたと思う。
- 自分だけで理解するのではなく、友達と考えを言い合えたのでより理解が深まった。それに人の意見を聞くことで、自分にはない考えなども聞けてよかった。
- 自分で理解するだけでなく、相手に説明しなければならぬので、相手の立場になって考え

ることができた。

- 人に説明すると自分でも考え直したりすることができるのでとてもいいと思った。
- ただ先生の話聞いて、理解するだけでなく自分たちでまとめることで、しっかりと頭に入った。
- ホワイトボードに文字を書くのはとても楽しかった。ホワイトボードは簡単に文字を消すことができるので良い方法だと思います。
- 授業の中で教わったことを確かめられた。思い出して考えながら説明文が書けるので、とても記憶に残った。
- 少人数の友達で考えることができたので、深く話し合うことができよかったです。説明するもの、自分の復習になってよかった。

(2) ア 「ホワイトボードを用いた特定の相手への『説明活動』は有効であったか」の結果と考察

ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」について、二人で協力して説明することは、思考を深めることにつながったと感じた生徒は94%であった。(図3-10)

また、仲間の説明を聞くことで、理解が深まったと感じた生徒は91%であった。(図3-11)

これらの理由として、「自分で理解するだけでなく、相手に説明しなければならないので、相手の立場になって考えることができた。」、「ただ先生の話聞いて、理解するだけでなく自分たちでまとめることで、しっかりと頭に入った。」、「自分だけで理解するのではなく、友達と考えを言い合えたのでより理解が深まった。それに人の意見を聞くことで、自分にはない考えなども聞けてよかった。」などの記述があった。(表3-7)

これらの結果から、「説明活動」では、「教師の説明」の直後に、ペアで意見交換を行いながら、獲得した知識を実際に活用して説明を考えることを通して、自分が分かっているところを確認する。また、説明後すぐに、相手ペアから説明の間違いの修正や、つけ足しをしてもらうことによって、分らなかったところを自覚するとともに、その理解を図るなど、活動を通して理解の確認が図られていたことが考えられる。これらのことから、ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」は有効であったと考えられる。

(2) ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」の有効性のまとめ

「説明活動」では、生徒は相手に説明する言葉を考える、そして実際に説明する過程の中で、学習した知識を整理する、自分自身の気づきや仲間との意見交換や説明後のつけ足しによって、理解の確認が図られたと考えられる。また、仲間からの説明を聞くことで、自分が学習したことと比較しながら確認が行われていたと考えられる。

さらに、説明を考える作業を二人で行ったことで、意見交換によって、相互による知識の補完が行われていたことも考えられる。

これらのことから、ホワイトボードを用いた特定の相手への「説明活動」は、生徒にとって学習したことの理解状態を確認することだけでなく、仲間との意見交換を通して理解を深めることにも有効であったことが考えられる。

(3)「チラシづくり活動」の有効性

ア 不特定の相手への「チラシづくり活動」は有効であったか

図3-12は、事後アンケートの「グループで協力してチラシをつくることを通して、思考を深めることができましたか」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4段階で記入したものである。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒は、合わせて91%であった。

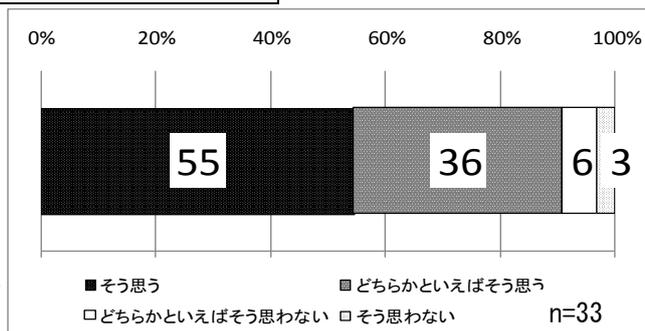


図3-12 「グループで協力してチラシをつくることを通して、思考を深めることができましたか」についての回答

図3-13は、事後アンケートの「他のグループがつくったチラシを見ることによって、理解が深まった」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4段階で記入したものである。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒は、合わせて91%であった。

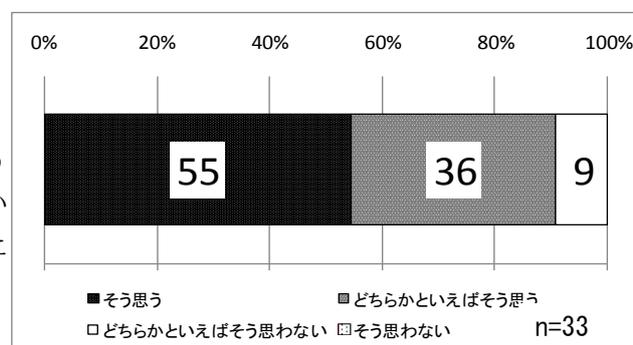


図3-13 「他のグループがつくったチラシを見ることによって、理解が深まった」についての回答

表3-8は、事後アンケートの「チラシづくり活動を行った感想」から「チラシづくり活動」の有効性についての記述を抜粋したものである。

表3-8 「不特定の相手へのチラシづくり活動」の有効性に関する記述内容（抜粋）

94%の生徒から、「チラシづくり活動」を行ったことに対して肯定的な記述が見られた。

- 自分や自分のグループが大事だと思ったことや、見る人の印象に残るようなことを書いていても、他のグループは、着眼点が違っていたりして、こうすることで印象を強くできるんだなとか、自分の中であらたな発見があってすごく理解が深まったと思う。
- グループの仲間の意見や、他のグループの意見を聞いて、その内容を深く理解できました。グループで協力する場面があったのでいいチラシが作れました。
- 実際に自分で文や絵にして書くことでより理解が深まった。色などを使うことで、あらためて重要な言葉などが確認できてよかった。
- チラシづくりは、この学習をしていない人に伝えるようにとホワイトボードを書くときよりもさらに意見を出しあったり、イラストをいれたり、むずかしい部分はけずり見やすいように工夫したりと、真剣に考え、学びを深められたと思う。
- 自分達だけでなく、他のグループが考えている事や思った事がわかり、「そういう考えも」と発見があり新鮮だった。
- チラシを作るのはむずかしかったけど周りの意見が聞けてわかりやすかった。
- 自分の考えを相手に伝えてチラシにするのが難しかったです。伝えたいことを初めて見る人

にわかるような文にするのが大変でした。

- どうしたら相手に伝えやすいかななどをグループで考えて活動することができた。写真をつかったり絵を描いたりすることで読む人に内容が伝わりやすいチラシをつくることができたのでよかった。
- 友達のチラシを見ることで新しい発見があった。「こういう考え方もあるのかぁ」と刺激を受けた。
- チラシ作りを行うときに、範囲を絞って説明するのは意外と難しかった。やはり大切なところを抜き出す力は必要なんだと改めて感じた。

(3) ア 「不特定の相手への『チラシづくり活動』は有効であったか」の結果と考察

不特定の相手への「チラシづくり活動」について、グループで協力してチラシをつくることを通して、思考を深めることができたと感じている生徒は91%であった。(図3-12) また、他のグループがつくったチラシを見ることによって、理解が深まったと実感した生徒は、91%であった。(図3-13)

これらの理由として、「チラシづくりは、この学習をしていない人に伝えるようにとホワイトボードを書くときよりもさらに意見を出しあったり、イラストをいれたり、むずかしい部分はけずり見やすいように工夫したりと、真剣に考え、学びを深められたと思う。」「どうしたら相手に伝えやすいかななどをグループで考えて活動することができた。写真をつかったり絵を描いたりすることで読む人に内容が伝わりやすいチラシをつくることができたのでよかった。」「自分達だけでなく、他のグループが考えている事や思った事がわかり、『そういう考えも』と発見があり新鮮だった。」などの記述があった。(表3-8)

これらの内容から、生徒はグループでの意見交換や、他のグループのチラシを見ることで、多様な考えに触れ、その中から、新たな発見をすることなどによって理解を深めていったことが考えられる。また、チラシでわかりやすく表現するために、学習したことを整理して、キーワード化したり、図や表を用いたりすることを通して、知識の活用が図られたと考えられる。

これらのことから、不特定の相手への「チラシづくり活動」は有効であったと推察される。

(3) 不特定の相手への「チラシづくり活動」の有効性のまとめ

「説明活動」では、対象が特定の相手であったのに対して、「チラシづくり活動」では、対象が不特定になったことや、口頭の説明からA4サイズのケント紙という紙のスペースに制約がある中で表現する形になった。生徒は、この制約に対応するために、図や表を用いることを考えることなど、自分たちなりの知識の関連付けや、学習したことをキーワード化するなどの要約などの知識の整理が行われていたと考えられる。

また、「説明活動」は、学習したことを確認する説明であったのに対して、複数の授業で学習したことを総合的に活用して、課題についてチラシで表現するため、学習したことから、何を伝えることが大切なのか、伝えたいことに対して情報がどれだけあれば、見る人はわかってくれるかなどを考えることを通して、たくさんの知識の中から必要なことの抽出などが行われていたことが考えられる。

さらに、4人のグループでの活動により、話し合いの中で多様な意見を聞き、完成したチラシをお互いに見合うことで、自分とは違った考え方や表現の方法を知ることなどの発見が理解の深まりにつながったと考えられる。

これらのことから、不特定の相手への「チラシづくり活動」は理解を深めることに有効であったことが考えられる。

(4) 目指す生徒の姿の達成状況（理解は深まったか）

ア 理解が深まったか。

図3-14は、事前・事後アンケートの「保健の授業で学習した内容は、理解できましたか」について、事前（検証授業前までの保健の授業）と事後（検証授業）を「できた」、「どちらかといえばできた」、「どちらかといえばできなかった」、「できなかった」の4段階で記入したものである。検証授業前までの保健の授業を振り返って「できた」と回答した生徒は、19%であったが、検証授業を振り返って「できた」と回答したと回答した生徒は、79%に増加した。

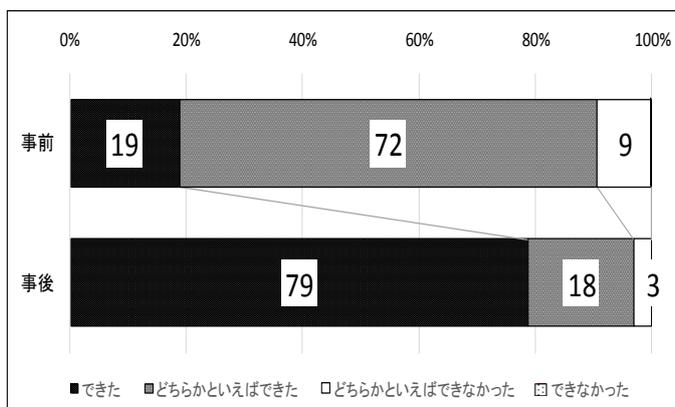


図3-14 「保健の授業で学習した内容は、理解できましたか」についての回答

図3-15は、事前・事後アンケートの「保健の授業で学習した内容は、自分に関係することだと実感していましたか」について、「実感していた」、「どちらかといえば実感していた」、「どちらかといえば実感していなかった」、「実感していなかった」の4段階で記入したものである。「実感していた」と回答した生徒は、事前は19%であったが、事後では55%に増加した。

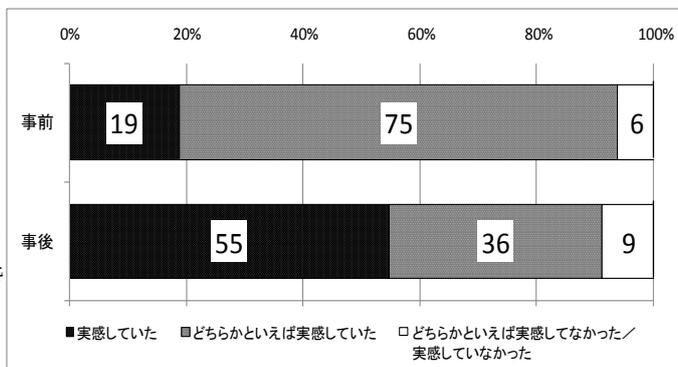


図3-15 「保健の授業で学習した内容は、自分に関係することだと実感していましたか」についての回答

図3-16は、事前・事後アンケートの「授業前または授業中に抱いた疑問について『あっ、わかった』『ああ、そうか』と、その疑問を解決することができましたか」について、「できた」、「どちらかといえばできた」、「どちらかといえばできなかった」、「できなかった」の4段階で記入したものである。「できた」と回答した生徒は、事前では12%であったが、事後では、39%に増加した。また、「できた」、「どちらかといえばできた」の肯定的な回答の合計については、事前の81%から、事後では88%に増加している。

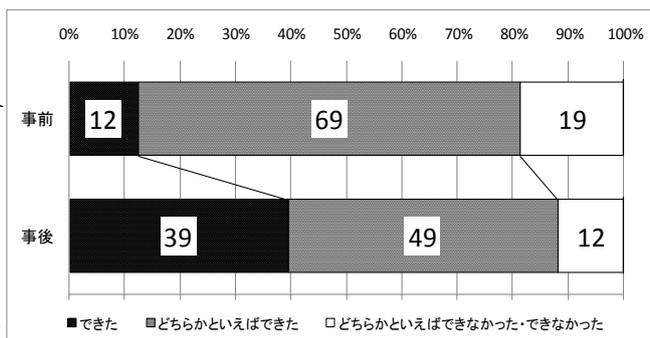


図3-16 「授業前または授業中に抱いた疑問について『あっ、わかった』『ああ、そうか』と、その疑問を解決することができましたか」についての回答

表3-9は、学習カードの感想の記述から、学習した知識を関連付けて考えている記述を抜粋したものである。

表3-9 学習した知識を関連付けて考えている記述内容

<p><飲酒と健康></p> <ul style="list-style-type: none">○アルコールを大人はみんな飲んでいるし、そこまで害はないものだと思っていたけど、自己管理がしっかりできていないと、タバコのように依存してしまうものだと知った。 <p><薬物乱用と健康></p> <ul style="list-style-type: none">○薬物はとてもこわいもので、酒やタバコよりこわいものだった。○薬物は、お酒やタバコ以上に依存性があるって、やめられなくなってしまうのがこわいと思った。
--

表3-10は、学習カードの感想の記述から、学習したことを自分の経験に結び付けている記述を抜粋したものである。

表3-10 学習したことを自分の経験と結び付けている記述内容

<p><薬物乱用と健康></p> <ul style="list-style-type: none">○風邪とかで薬を使うことはあるけど、しっかりルールを守って服用していきたい。 <p><感染症とその予防></p> <ul style="list-style-type: none">○小学校のときにくらべて今、かぜをひかなくなったのは、部活で体力づくりをしていたからだと分かったので、これからも体力づくりはしていきたい。○冬によく親が手洗い、うがいをしつこく言っているのはインフルエンザの予防のためかと思った。○去年はじめてインフルエンザにかかってしまった時、前日に大きな大会があり、たくさんの方がいたからなのかなと思いました。

表3-11は、学習カードの感想の記述から、学習したことを生かして、これからの自分の生活をより良くしようとする記述を抜粋したものである。

表3-11 学習したことを生かして、これからの自分の生活をより良くしようとする記述内容（抜粋）

<p><飲酒と健康></p> <ul style="list-style-type: none">○将来、20歳すぎたらお酒を飲んでみたいと思っているけど、飲む前にパッチテストなどをやって、あらかじめ自分のお酒の強さをしてってから安全にお酒を飲みたいと思った。○成人になるまで僕は飲まないようにする。○日本人には、アルコールを分解する酵素が少ないときいたので、自分の飲める限度などを考えて、お酒を飲む大人になりたいです。 <p><薬物乱用と健康></p> <ul style="list-style-type: none">○もし誰かにさそわれちゃったとしても、ちゃんとことわれるようにしたいです。○将来、このような話を持ちかけられることがあっても、しっかりと断って薬物に手を染めないように気を付けたい。 <p><感染症とその予防></p> <ul style="list-style-type: none">○ゆっくり休むことも大事なんだなと思った。○これから受験なので、感染しないようにもう1度、私生活を見なおし、規則正しい生活を心がけた、自分のためにも、まわりの人にうつらないためにも気をつけて生活したい。 <p><性感染症とその予防/エイズ></p> <ul style="list-style-type: none">○性感染症が危険だということがわかりました。若い世代に増えているということで、自分だけでなく周りの友達とかも気づいてよく考えて行動していけるように自分を大切にすることが大切だと思いました。
--

- 性感染症の問題はこれから自分の問題にもなっていくことだと思うから、今回の授業で終わりではなく、少しでもそのことに自分の考えを持つことも大切だと思った。
- これからの人生において、エイズについてきちんとした知識を持つことは大切で、予防するためにも感染者を理解するのも必要となると感じた。

(4) ア 「理解が深まったか」の結果と考察

保健の授業で学習した内容は理解できたと感じていた生徒は、検証授業前の 19%から、検証授業後は 79%に増加した。(図3-14) また、学習した内容は、自分に関係することだと実感した、どちらかといえば実感したとじている生徒は、検証授業前の 94%から検証授業後は 91%に減少している。減少した理由として、検証授業で薬物乱用や性感染症などについて、初めて知ったことが多かった生徒は、あまり自分に関係する事としてイメージできなかったことが考えられる。しかし、強く実感している生徒は、検証授業前の 19%から検証授業後は 55%に増加している。(図3-15)

さらに授業前または授業後に抱いた疑問について「あっ、わかった」「ああ、そうか」と、その疑問を解決することができたと感じた生徒は検証授業前の 81%から、検証授業後は 88%に増加した。(図3-16)

本研究では、知識の活用によって理解を深めることをねらいとして、その具体的な方法として、「説明活動」と「チラシづくり活動」を段階的に行った。

生徒は、「予習」や「教師の説明」で獲得した知識を、「説明活動」において、説明することを通して活用し、自分の理解の状態を確認するとともに、自分とは異なる考え方や説明を仲間から聞くことによって、知識の関連付けが図られたと考えられる。そして「チラシづくり活動」では、複数の授業で学習したことを総合的に活用して、課題について不特定の相手に伝えるチラシをつくることを通して、生徒は学習したことから、何を伝えることが大切なのか、どの情報があれば見る人はわかってくれるかなどを考えたり、その表現の方法として図や表と関連付けて考えたり、生活の場面と結び付けて考えたりするなど、さまざまな形で知識の活用を図っていたことが考えられる。

そして、学習したことを、単に知識として、また、記憶としてとどめてしまっていたこれまでの状態から、「説明活動」や「チラシづくり活動」を通して、学習した知識の関連付け(表3-9)や学習したことを自分の経験と結び付けること(表3-10)、そして、学習したことを生かして、これからの自分の生活をより良くしようとする(表3-11)などが図られ、生徒の理解が深まったと考えられる。

イ 学習を振り返り、日常生活の中で実践的に活用することができたか

図3-17は、学習カードの「今日の勉強で、これからの生活に役に立つことができますか」について、「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」の3段階で記入したものである。3時間目・6時間目以外は、「はい」と回答した生徒は100%であった。

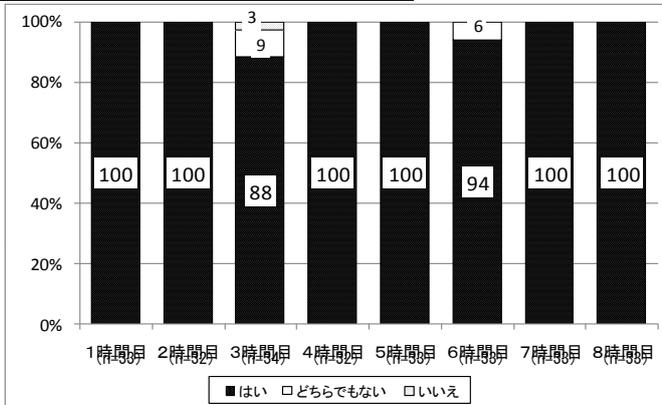


図3-17 「今日の勉強で、これからの生活に役に立つことができますか」についての回答

図3-18は、事後アンケート②の「学習したことを生活の中で生かしたことがありますか」について、「ある」、「ない」の2段階で記入したものである。学習したことを生活の中で生かしたことが「ある」と回答した生徒は、53%であった。

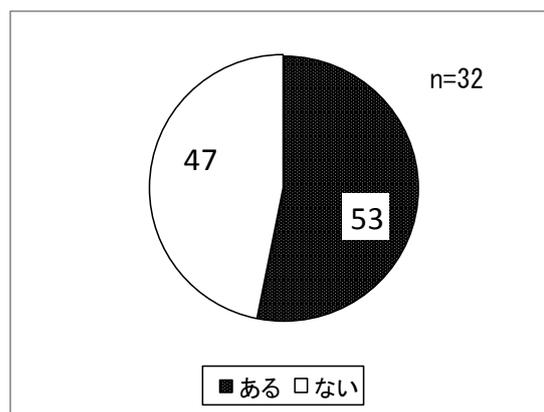


図3-18 「学習したことを生活の中で生かしたことがありますか」についての回答

表3-12と表3-13は、図3-18の「学習したことを生活の中で生かしたことがありますか」で、「ある」と回答した生徒は、生活の中で実際に生かしたことについて、「ない」と回答した生徒は、今後の生活の中で生かそうと思っていることについての記述を抜粋したものである。

表3-12 学習したことを生活の中で生かしたことが「ある」と回答した生徒の「生活の中で実際に生かしたことについて」の記述内容（抜粋）

- ・毎日、手洗いうがいを忘れず、早寝早起きを心がけている。
- ・かぜとかインフルエンザにならないように規則正しい生活をするように心がけている。
- ・家族が喫煙をするときは、煙をさけるようにしている。
- ・感染症予防のために、外出したらかならず手洗いとうがいを心がけている。
- ・インフルエンザにかからないように、毎日しっかりと手を洗っている。
- ・感染症予防のために消毒用のアルコールを携帯している。
- ・インフルエンザやノロウイルスにかからないよう、手洗い、うがいをしている。
- ・手洗い、うがいをしっかりしたい。人ごみに行く時や友達と会う時はマスクをする。
- ・お酒を飲まない。
- ・感染症予防のためにマスクを毎日つけている。

表3-13 学習したことを生活の中で生かしたことが「ない」と回答した生徒の「今後の生活の中で生かそうと思っていること」の記述内容（抜粋）

- ・インフルエンザにならないように、しっかり睡眠をとって、適度な運動をする。
- ・大人になったら、喫煙や飲酒など、なるべくなら、しないようにする。
- ・絶対に薬物乱用をしない。
- ・大人になっても飲酒やたばこをなるべくさける。
- ・インフルエンザなどの感染症に気をつける。
- ・飲酒、大人になって飲むとき、一気に飲みとかは気をつけたい。薬物には手を出さない。
- ・大人になったら、お酒には気をつけようと思う。
- ・20才まで飲酒しない。
- ・将来、お酒を飲む時に授業で習ったことに気をつけながら飲みたい。
- ・お酒の飲み過ぎを親に注意する。

(4) イ 「学習を振り返り、日常生活の中で実践的に活用することができたか」の結果と考察

「学習を振り返り、日常生活の中で実践的に活用することができたか」について、学習カードの「今日の勉強で、これからの生活に役に立つことがありますか」では、3時間目・6時間目を除いて100%の生徒がこれからの生活に役に立つことがあると回答した。(図3-17) このことから生徒は、今回の授業の学習内容が自分の生活に関係すると認識していると考えられる。

次に、事後アンケート②の「学習したことを生活の中で生かしたことがありましたか」について、53%の生徒が「ある」と回答し、47%の生徒が「ない」と回答した。(図3-18)

それぞれの回答について、「ある」と回答した生徒が、学習したことを生かした内容の特徴として、「毎日、手洗いうがいを忘れず、早寝早起きを心がけている。」「かぜとかインフルエンザにならないように規則正しい生活をするように心がけている。」などの感染症予防のための実践の記述が多く見られた。このことから生徒は、学習したことの中から、今の自分にできる具体的な行動を実践していることが考えられる。(表3-12) また、「ない」と回答した生徒が今後の生活の中で生かそうと思っている事の特徴として、「大人になったら、喫煙や飲酒など、なるべくなら、しないようにする。」「絶対に薬物乱用をしない。大人になっても飲酒やたばこをなるべくさける。」など、喫煙や飲酒についての記述が多く見られた。このことから生徒は、将来の生活の中で、学習したことを生かしたいという意欲があると考えられる。(表3-13)

これらの結果から、生徒は学習した知識を、「説明活動」や「チラシづくり活動」を通して、その知識が生活のどの部分に結びつくかをイメージすることにより、自分に関係することとして捉えて、活用しようとしていると考えられる。

(4) 目指す生徒の姿の達成状況(理解が深まったか)のまとめ

今回の授業では、「教えて考えさせる授業」のモデルを活用するとともに、「考えさせる」場面において、「説明活動」で学習したことの確認を行い、「チラシづくり活動」で学習したことを総合的に活用することを通して、理解の深まりを目指した。

生徒は、「予習」と「教師の説明」を通して獲得した知識を「説明活動」において実際に使う事で、その理解度を、実感を持って確認し、知識の獲得をより確かなものにする事ができたと考えられる。

この過程が基盤となり、「チラシづくり活動」では、チラシを作るための意見交換や他のグループのチラシを見るなど、さらに多様な考えに触れることを通して、生徒は、学習した知識を相互に関連付けたり、自分の経験と結び付けたり、自分の生活をより良くしようと考えたりするなど、理解を深めようとしていることが考えられる。

さらに、授業後の生活の中で生徒は、学習したことを実践したり、将来の生活の中で学習したことを生かしたいと考えたりするなど、学習内容を自分に関係することとして捉えて理解している事が記述から感じられる。

これらの結果から、生徒は今回の授業を通して、学習内容を単に知識として、また、記憶としてとどめるのではなく、自分の生活に関係することとして捉えて考えるなど、理解を深めることができていると推察される。

5 学習指導の工夫の効果

(1) 予習プリントと学習カードについて

予習プリントは、生徒に学習の見通しを持たせることを主なねらいとして、また過重負担にならないよう、教科書等を用いて5分程度でできるであろうと考えられる内容にした。

予習の実施状況としては、今回の授業全8時間の平均として、授業を行う日の朝の会の時点で約84%の生徒が予習を行って来ていた。(図3-19) この段階で予習を行って来ていない生徒も、授業の前までに教科書を用いて予習を行っている様子が見られた。予習の量としては、事後アンケートの「予習プリントの内容は多かった」について、81%の生徒が「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と回答している。(図3-20)

学習カードは、図3-21や図3-22のようなメモを取ることができるような形式にした。そして、教師の説明やスライドのすべてをメモするのではなく、自分が知らなかったことや、このことが大切だと感じたことについてメモを取ることを事前に生徒へ説明した。

授業では、1時間目の授業は図3-21のように、予習プリントと学習カードが別の用紙の状態、生徒は教師の説明を聞いたりスライドを見たりしてメモを取っていた。しかし、生徒の様子は、教師の説明やスライドを見たり聞いたりするために前を向き、予習プリントや教科書でその内容を確認したり、学習カードにメモをとったりなど、視点があちらこちらと変わり、その結果メモを取ることに追われてしまっていた。さらに、机の上には教科書と予習プリント、学習カードが広がり、窮屈そうにメモを取っている姿も見られた。

そこで、2時間目からは、予習プリントと学習カードを1枚の用紙に並列して配置させることで、教師の説明をプリントの予習部分で確認し、すぐ横の学習カードの部分に必要な応じて補足等のメモを記入できるようにした。これによって生徒は、教師からの説明すべてを記入するのではなく、図3-22のように、教師の説明から必要なことを自分でキーワード化して、その説明を予習の部分と結びつけるなどのメモの取り方の工夫もみられた。

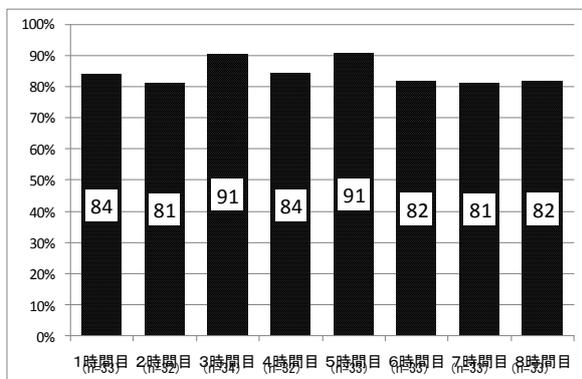


図3-19 予習プリントを行ってきた生徒の割合

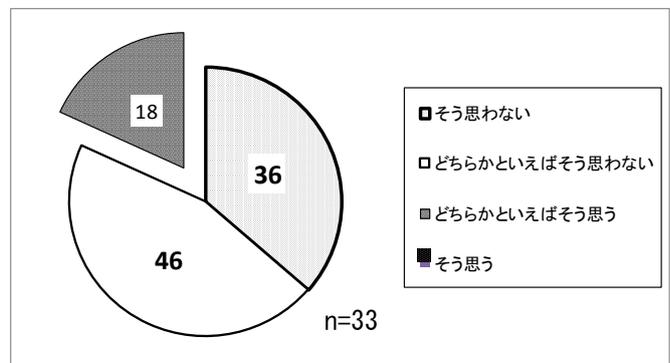


図3-20 「予習プリントの内容は多かった」についての回答

<p>喫煙と健康【教科書P78～P79】</p> <p>①喫煙の健康への影響について</p> <p>□たばこの煙の中の主な有害物質： _____ など</p> <p>・() には依存性があるため、喫煙が習慣化するとやめるのが難しくなります。</p> <p>依存性とは その物質が、人に再びその物質体験をしたいという欲求を脳の中に起こさせる性質のことを依存性という。進行すると、その物質体験が身体的・精神的に悪いとわかっていても、それがないと身体的・精神的な平常を保てない状態を依存症という。</p> <p>□喫煙による急性影響</p> <p>・喫煙すると、たばこの煙の中の有害物質の影響により、() の収縮、脈拍数の増加、() の上昇、酸素の運搬能力の低下、のどの線毛の損傷、めまい、せき、() への負担など、さまざまな急性影響が現れる。</p> <p>□長期間の喫煙による慢性影響</p> <p>・喫煙を長い年月にわたって続けると、() や慢性気管支炎、心臓病など、さまざまな病気にかかりやすくなる。</p>	<p>喫煙と健康 (教科書P78～79)</p> <p>3年 組 番 氏名 _____</p> <p>1 喫煙の健康への影響 ＜喫煙すると、体にどのような変化が起こるの？＞</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>2 未成年者の喫煙の害 ＜なぜ未成年者の喫煙はいけないの？＞</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>
--	---

図3-21 1時間目の予習プリント(左)と学習カード(右) (一部抜粋)

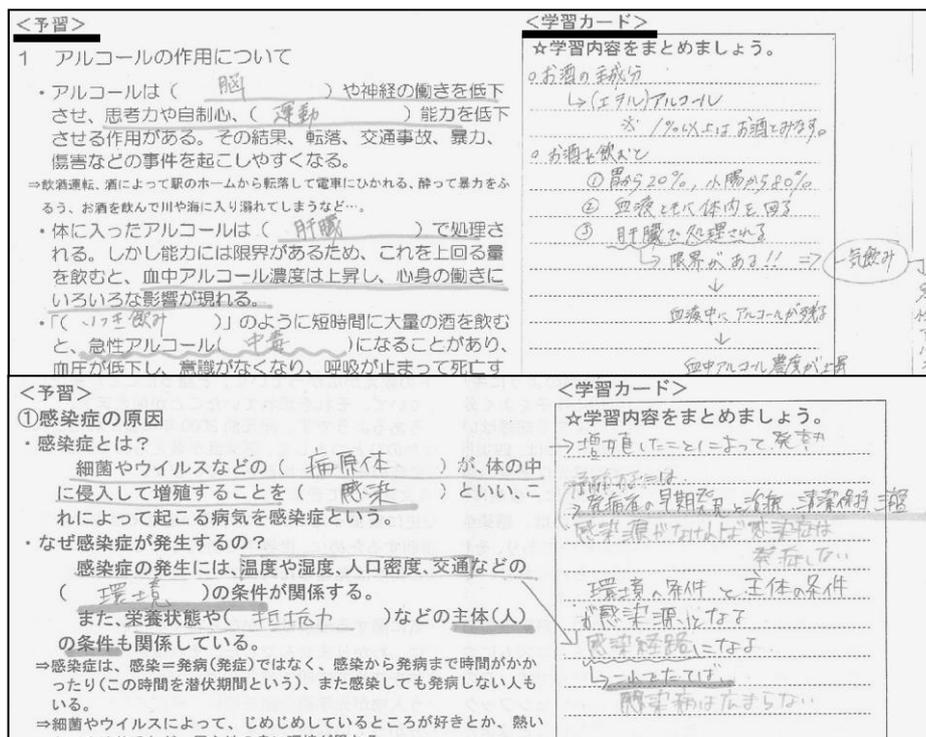


図3-22 予習プリントと学習カードを1枚の用紙にまとめたもの
2時間目(上)と5時間目(下)のメモの様子(一部抜粋)

(2) 視聴覚教材について

今回の授業では、教師の説明はすべてプレゼンテーションソフトを活用して教材を作成し、説明を行った。先にも述べたが、プレゼンテーションソフトの使用で画像や動画を用いることにより、生徒により具体的なイメージを掴ませることができたり、生徒の興味・関心を引き付けたりすることに効果があった。しかし、1時間目のスライドは、説明に終始する内容になってしまっていた。そのため、生徒は予習で行ってきたことの確認や、今の説明は、予習プリントのどの部分なのかを把握することが難しくなっていた。

そこで2時間目からは、予習プリントと内容をリンクさせることで、生徒が教師の説明を、ただ見たり聞いたりするだけでなく、予習プリントの穴埋め箇所を教師の説明で、生徒とのやりとりを通して解答させることによって予習してきたことを確認できるようにした。

これによって、予習プリントと学習カード、そしてプレゼンテーションソフトのスライドがリンクし、生徒は予習で行ってきたことを、教師の説明で確認して、補足等を学習カードにメモすることができるようになり、生徒が学習内容を理解していくことに効果があった。

(3) 小グループによる学習について

「説明活動」や「チラシづくり活動」は、生徒を男女混合の4名程度の小グループに編成して活動した。

「説明活動」では、4名の小グループをさらにペアに分けて、説明づくりを行った。活動を成り立たせるためには、お互いに自分の考えを持つことが必要とされる。生徒は、お互いに意見を交換し合いながら、自分たちのペースでじっくりと説明を考えることができていた。そして活動を通して、学習したことの確認が図られていた。

また、「チラシづくり活動」では、4名の活動によって、記事の下書きを行ったり、図や表の準備をしたりなど、全員が確実に活動に関わることができていた。また生徒は、チラシが完成したことを喜んだり、自分たちのチラシへの仲間からの評価が気になっていたりなど、自分がチラシづくりに関わることができたと実感を持つことができていたようである。さら

に、他のグループのチラシに興味を持って見ながら、自分たちのチラシと内容や表現の違いを比較するなど、そこから、多様な考えに触れたり、新たな発見をしたりなど、理解を深めていた。

(4)「説明活動」について

「説明活動」では、ホワイトボードに説明する文章を書き、相手に見せながら説明を行った。また、説明する文章づくりのサポートとして、キーワードが書かれたカードを用意し、キーワードカードを使うことで、説明の文章をまとめやすくした。さらに単元が進むにつれて使用するキーワードカードの枚数を減らしていくことで、自分の言葉で説明することを目指した。

活動するにあたり、教師からアドバイスとして、相手に「わかりやすく」、「詳しく」伝えることを意識すること、キーワードカードを活用すること、自分の知っていることや体験したことなどを説明に入れると、自分の言葉での説明ができることを伝えた。

1時間目の活動では、キーワードカードを7枚用意したが、初めての活動ということもあり、キーワードカードをすべて使用して説明の文章を作っていた。その文章の内容は、**図3-23**のように「予習」や「教師の説明」で学習した一部分を、そのまま抜き出したようなものが多かった。

単元が進み「説明活動」に慣れてくると、自分の体験を説明に加えたり、学習したことから、必要な情報を関連付けたりするなどの工夫が見られるようになった。**図3-24**は、ノロウイルスの予防について、自分や自分の家族がノロウイルスに感染した時、診察を受けた医師に「ノロウイルスは感染する力が強い」と言われたことを説明に加えたものである。また**図3-25**は、性感染症の感染を予防する方法について、「予習」や「教師の説明」で学習した不特定多数や危険な性的接触をしないために、正しい知識を身につけることが大切であるということに、授業の導入でクラミジアやHIV/エイズの年代別感染者数のグラフから読み取った、感染者数が10代・20代の若い世代で増加していることを加えていた。

今回の活動では、A4サイズのホワイトボードを用いた。ホワイトボードは紙に鉛筆等で書くことに比べて、容易に書いたり消したりすることが可能であり、また遠くからでも字が明瞭に見えるため、活動のスムーズな進行に大きな効果があった。

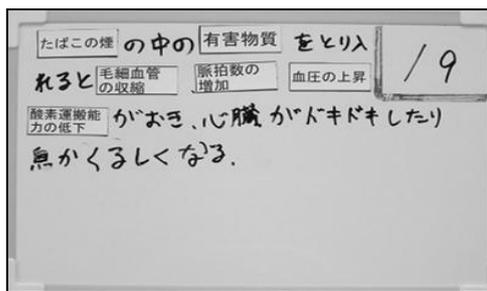


図3-23 1時間目の説明活動で生徒が考えた説明の文章

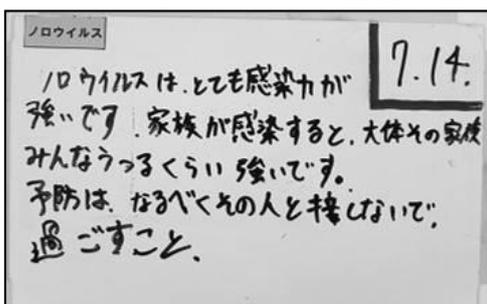
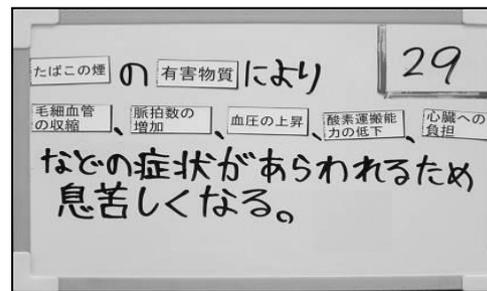


図3-24 5時間目の「ノロウイルスの予防」について生徒が考えた説明の文章

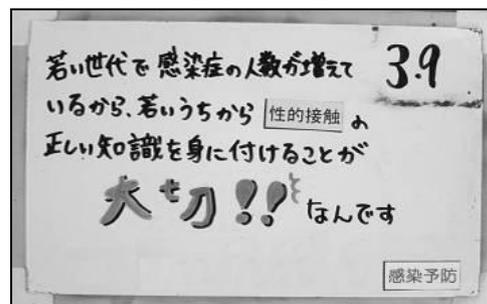


図3-25 7時間目の「性感染症の予防」について生徒が考えた説明の文章

(5) 「チラシづくり活動」について

「チラシづくり活動」は、伝える対象を同世代の中学生と設定し、作業は4人程度のグループで行った。生徒は、これまでに壁新聞をつくったことはあるが、チラシをつくることは初めてであった。そこで、神奈川県警察本部がホームページで公開している、子どもに犯罪行為防止を呼びかけるチラシを見本として印刷して配布した。また、「キャッチコピー」→「伝えたい内容の説明」→「メッセージ」という構成を、今回のチラシにも活用することとした。

1回目の「チラシづくり活動」では、まず、個人がチラシで伝えたい事やレイアウトを考えてから、グループでの話し合いを行うようにした。しかし、初めてのチラシづくりということもあり、個人の考えをまとめることに時間がかかってしまい、その結果、グループの話し合いや作業時間が不足し、いくつかのグループでチラシを完成させることができなかった。

チラシの内容は、長い文章による説明が多く、生徒の感想には、「どちらかというと、図の方が理解しやすいし、見る気にもなるから文字は少なめで図を多くした方がいいと思った。」「同じ中学生にうたえる内容なので、自分が見て心にぐっとくる内容や表現にしたい。」など、伝えるために工夫が必要であることを感じているものが見られた。また、初めてのチラシづくりで活動がスムーズに進まず、「まとまらないし、グループで協力してなかったからつまらなかった。」と書いている生徒もいた。(図3-26)

これらのことから、活動をスムーズにさせることと、伝え方のアドバイスが次のチラシづくりに向けての課題となった。

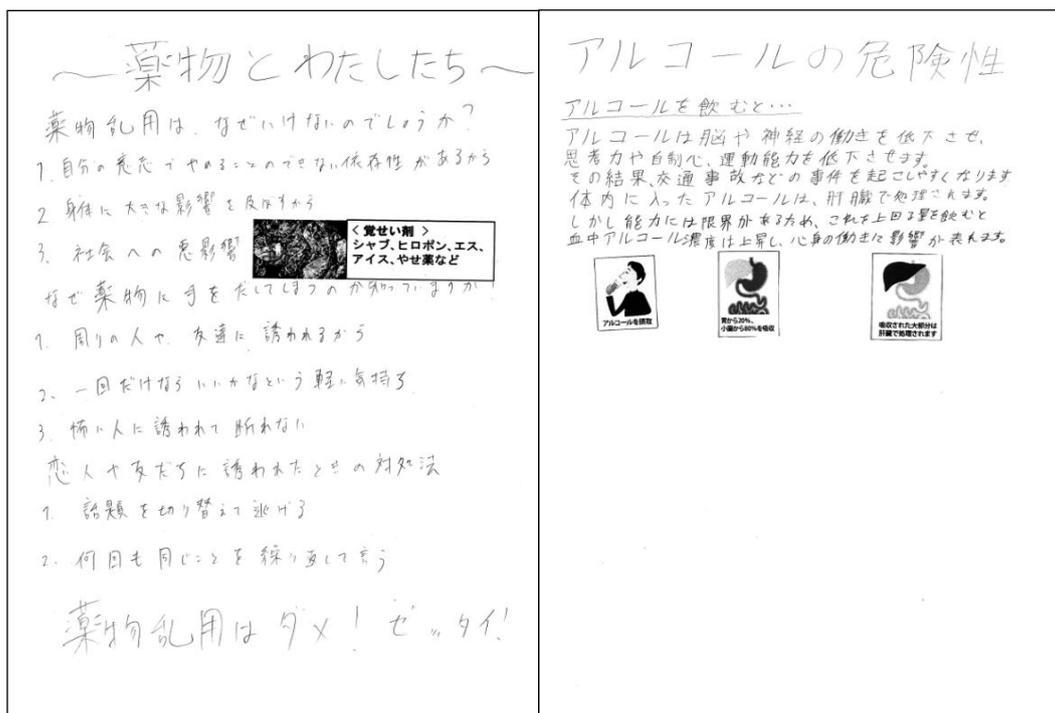


図3-26 1回目の活動でつくられたチラシ

2回目は、活動の前に前回のチラシづくりの生徒の感想を取り上げ、わかりやすいチラシをつくるために、「『何』を伝えたいのか、『何』の部分をも具体的にすること」、「チラシに情報を多く入れすぎると、かえって伝わりにくくなることもあること」、「長い文章で説明するよりも、図や表を活用することで視覚に訴えて伝えた方が分かりやすいことがあること」をアドバイスした。

活動では、あらかじめ、予習の段階で個人の案を考えてくることで、活動はグループの

話し合いから始められるようにした。これにより、チラシづくりの作業時間の確保につながった。また、B4サイズのホワイトボードを各グループに配付して、グループの案をまとめられるようにした。ホワイトボードを用いたことによって、アイデアをホワイトボードに形として残すことができるため、グループ全体で共通したイメージを持つことができ、意見交換が活発になっていった。

しかし、話し合いの様子を見ると、いくつかのグループで、意見は出ているのだが、その意見は予習で行ってきた個人の案からのものではなく、ホワイトボードを取り囲み、一から考え始めてから出てきたものであった。そのため、話し合いの内容がレイアウトについてのものを中心になってしまい、学習したことの確認や情報交換が少なかった。

チラシの内容は、図や表が活用されるなどの工夫が見られ始めた。(図3-27)

生徒の感想は「チラシづくりは楽しかった。」、「チラシづくりが楽しかった!!チラシを自分たちでつくることでもっとインフルエンザのことを知ることができたのでよかったです。」など、チラシづくりが充実してきている様子がうかがえるものが見られた。

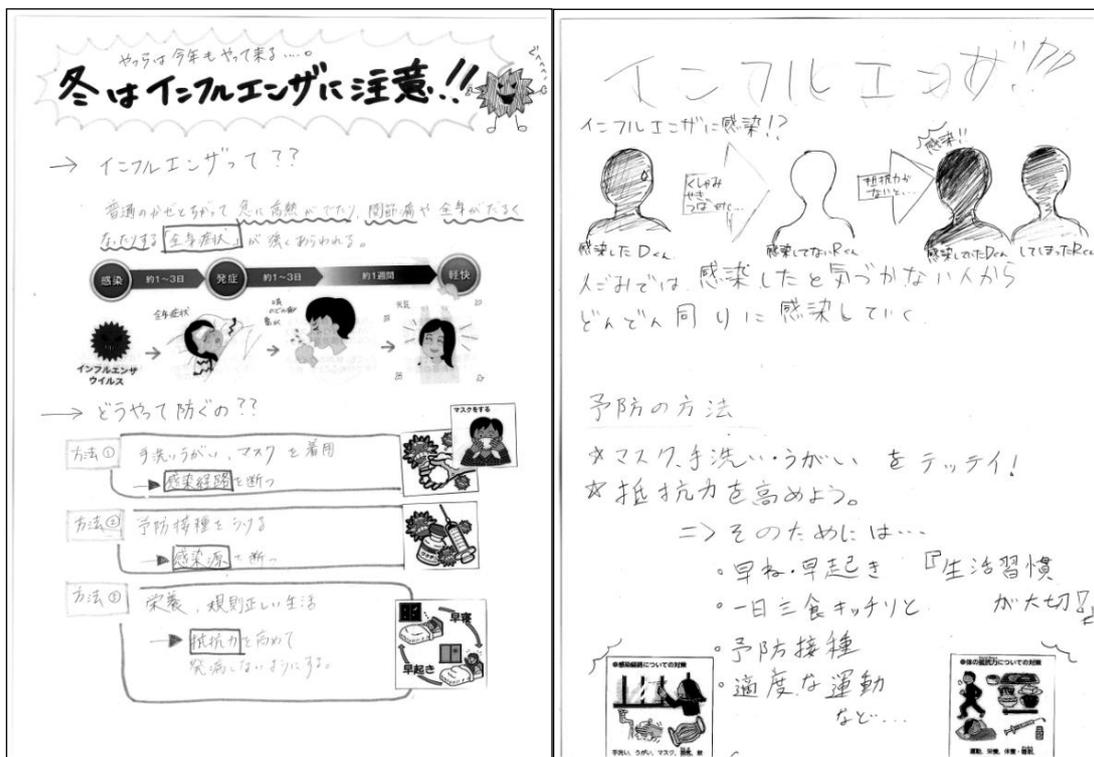


図3-27 2回目の活動で作られたチラシ

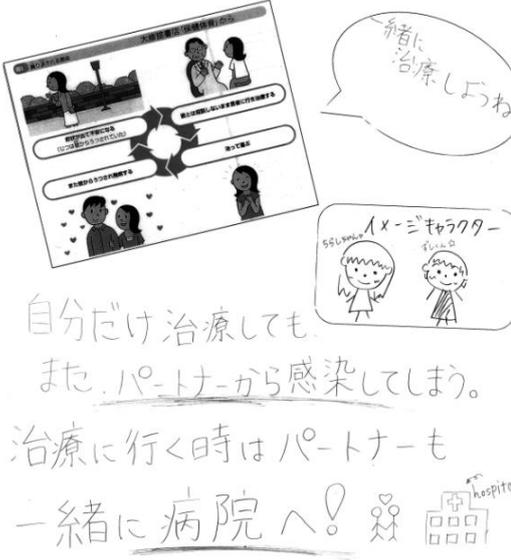
3回目は、活動を始める前に、2回目と同様に伝え方のアドバイスと、グループの話し合いでは、始めにそれぞれが考えてきた案を伝え合い、その案を活用してグループの案をまとめていくことのアドバイスを行った。これによって、生徒は仲間のアイデアを活用し、話し合いがチラシのレイアウト中心ではなく、「どのようなキャッチコピーにしたら、見る人を引きつけられるか」、「わかってもらうためには、どの情報が必要か」、「文章や図、表のどの方法で見せるとわかりやすいのか」など、見る人のことを考えた発信の工夫や、学習したことの確認や情報交換などが話し合いの中心になっていった。

チラシの内容は、2回目よりもさらにキャッチコピーやメッセージの工夫や、図や表の活用が図られたものが見られた。(図3-28)

「チラシづくり活動」は、検証授業の結果と考察の(3)で述べているように、生徒は、わかりやすく伝えるために、図や表を用いることを考えることなど、自分なりの知識の関連付けや、学習したことをキーワード化などの要約により、知識の整理が行われていたと

考えられる。また、話し合いで多様な意見を聞いたり、チラシをお互いに見合ったりすること、自分とは違った考え方や表現の方法を知ることなどが、理解の深まりにつながったと考えられる。

繰り返される感染？



自分だけ治療しても
また、パートナーから感染してしまう。
治療に行く時はパートナーも
一緒に病院へ!

HIVについて正しい知識を持つ！

① HIVとは？
HIVとはエイズの原因となるウイルス。体内に入ると免疫力を低下させます。だが、感染している状態で免疫力が高いため性的接触や母子感染や血液において他人にうつる可能性が低いです。

↳ 予防法・対処法

- ① 性的接触を避ける
- ② 感染した場合やうかがいがあるときはパートナーと一緒に早期の検査と治療を受ける

② 私たちがすべきことは？
大切なのは私たちがHIV・エイズについて正しい知識を持つこと。HIVは、ただの接触（体にかかること）やくしゃみやせきなどの飛沫感染はしない。また、十分な知識をもってHIV感染者を差別してはいけません！！

↓

**正しい知識を持つことは
予防や感染者に対して理解することにもつながる**

図3-28 3回目の活動で作られたチラシ

6 授業全体を振り返って

ここまで、今回の検証授業について、分析の視点に沿って振り返ってきたが、ここでは、授業全体について振り返っていききたい。

保健の授業について

表3-14 は、第1章の主題設定の理由で述べた、保健分野の授業の状況について、「保健の学習は大切だ」、「授業の内容がわかった」、「授業で考えたり工夫したりできた」、「保健の学習は好きだ」、「保健の学習は楽しい」について、肯定的な回答をした生徒の割合を事前・事後で比較したものである。

事前アンケートの結果では、87%の生徒は保健の学習は大切だと感じている。また90%の生徒が授業の内容がわかったと回答している。

しかし、授業で考えたり工夫したりできたと感じている生徒は64%である。また、保健の学習は好きだと感じている生徒は31%、保健の学習は楽しいと感じている生徒は40%であった。

このことから、生徒は保健の授業は大切だと感じながら授業に臨み、学習内容を理解しようとしていることが考えられる。しかし、保健の学習は好きだとか楽しいとあまり感じていない状況から、授業の中で、生徒が学習内容を理解していく過程の工夫が課題であると考えられ、事前アンケートからも、自分が行ってきた講義型中心の授業展開を改善する必要性があると思われた。

その授業展開の改善として、今回の授業では、「教えて考えさせる」授業の流れを用いて、生徒が予習や教える場面で獲得した知識を、考えさせる場面における「説明活動」と「チラシづくり活動」でその活用を図ることにより、理解を深めていくことを目指した。

事後アンケートでは、どの数値についても増加している。このことから、「説明活動」や「チラシづくり活動」を通して、生徒は、自ら考えたり工夫したりできたと感じてくれているようである。

また、**表3-15**の事後アンケートの授業の感想にもあるように、仲間との活動で、色々な考えを聞いたり、課題解決に向けて協力し合ったりすることなどにより、生徒は、仲間と共に学んでいると実感し、学習内容に対して自分自身の理解の不安が、仲間の協力によって取り除かれたり、楽しさを感じたりしていると考えられ、「保健の学習は好きだ」、「保健の学習は楽しい」の数値の増加につながっていると考えられる。

生徒は、保健の授業は大切であると感じ、授業の内容を理解しようという意欲を持っている。学習内容を理解していく過程で、生徒の興味や関心、疑問を引き出すような発問や教師の説明の工夫や、そして、教師が基本的な学習内容を教えた上で、生徒が学習内容について自ら考えられる手立てを講じることによって、学習内容の理解に実感が伴ってくると考えられる。この実感が保健の学習は楽しい、好きだと感じることに繋がっていくのではないだろうか。さらに、主体的に学ぶことによって、授業の内容の理解もより深いものになり、学習したことが生活の場面での実践化につながる。これらの一連の流れが、「健康の保持増進のための実践力の育成」になっていくのではないかと考える。

表3-14 事前アンケート・事後アンケート「保健の学習は大切だ」、「保健の内容がわかった」、「授業で考えたり工夫したりできた」、「保健の学習は好きだ」「保健の学習は楽しい」の回答

項目	事前アンケート	事後アンケート
保健の学習は大切だ	87%	100%
授業の内容がわかった	90%	100%
授業で考えたり工夫したりできた	64%	94%
保健の学習は好きだ	31%	79%
保健の学習は楽しい	40%	72%

(事前 n=32 事後 n=33)

表3-15 事後アンケート「授業の感想」(抜粋)

- 保健は苦手で、ついていけなくなるかなと不安もあったけど、時間がたつにつれてなくなったし、自分がわからなくても協力してくれる友達もいたから、苦手だった保健も楽しく授業がおくれたので良かったです。
- 説明を聞いて自分たちで今度は他の人に説明するという授業は今までやったことがなかったけど、ただ聞いて終わりだけじゃなくて、自分たちで考えるということをしたので、普通の授業より記憶にのこった。
- 先生が話している時はひたすらメモをとり内容を理解していた。その後に自分たちで活動すると、先生が言っていたことの内容が深く理解するだけでなく、新たに考えや疑問が出てきてよかった。
- グループで活動する授業が多くてよかった、楽しかった。
- 自分たちで活動するというのが新鮮で楽しかった。活動することによって、深く理解することができた。
- 聞くだけじゃなくて話し合ったりまとめたり毎回班での活動があったから、みんなの意見を聞くことができるので、とても楽しい授業でした。

第4章 研究のまとめ

1 研究の成果と課題

本研究では、生徒の理解を深めるために、次にあげる保健分野の学習における指導法のモデルを提案することを目的に授業を進めてきた。

- (1) 「教えて考えさせる授業」の流れを活用した指導法
- (2) 理解確認・理解深化の場面に「説明活動」及び「チラシづくり活動」を取り入れた指導法

その結果、次のようなことが明らかになった。

ア 「教えて考えさせる授業」の流れを活用した指導法について

「教えて考えさせる授業」の流れを活用した授業を展開したことにより、生徒は、「予習」で学習内容の見通しを持ち、「教師の説明」で予習の確認と同時に、予習した知識に対して具体的な意味付けなどを行って、知識を獲得していった。そして、「理解確認」で学習したことを『説明活動』によって確認し、「理解深化」で学習してきたことを総合的に活用する『チラシづくり活動』を通して理解を深め、「自己評価」で授業を振り返りながら、わかったことやわからなかったことを具体的に記述することで整理し、自分の理解状態を診断することによって理解を深めていくことができた。また、自分の経験や生活に結び付けて考えるとといった理解の深まりも見られた。

本研究は当初、「理解確認」では『説明活動』、「理解深化」では『チラシづくり活動』という生徒の作業量が多い活動を両方とも、1単位時間の授業の中に計画したが、保健分野は一つの学習内容で扱う知識が豊富であるため、50分の授業の中で、両方を行うことは、時間的に難しいことが分かった。

そのため、**図4-1**の当初計画していたすべての授業で「教えて考えさせる授業」の全場面を行う単元構成から、**図4-2**のように、8単位時間を具体的な指導内容ごとのまとまりで分けて考えた。「教えて考えさせる授業」の流れの順序性をできるだけ崩さないよう、「予習」、「教師の説明」、「自己評価」はすべての時間で行うこととし、まとまりの最後の時間以外は「理解確認」を、最後の時間は「理解深化」を行う構成にした。このような構成にしたことによって、「教師の説明」の時間が延びてしまい、「考えさせる」場面の時間が短くなることがあったが、基本的には、時間のゆとりが生まれ、一つひとつの活動を充実させることにつながった。

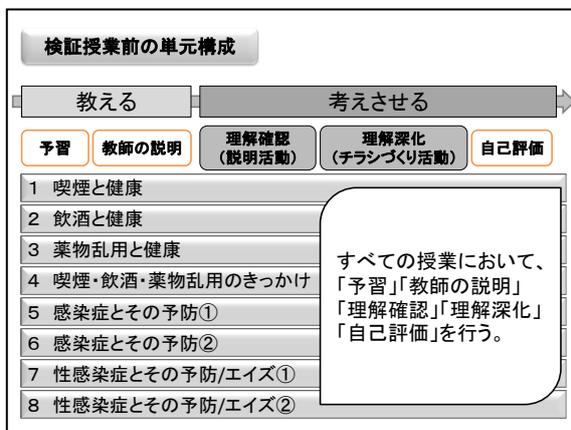


図4-1 検証授業前の単元構成

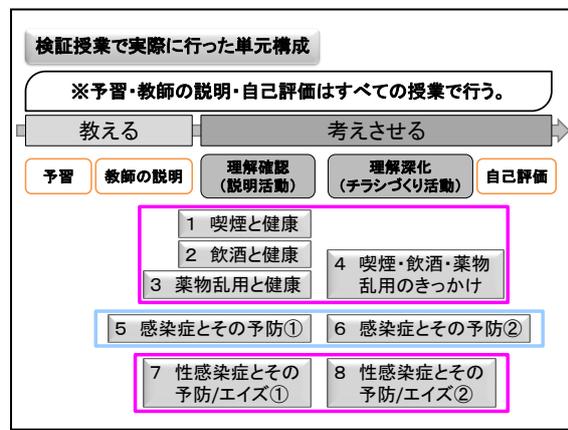


図4-2 検証授業で実際に行った単元構成

イ 理解確認・理解深化の場面に「説明活動」及び「チラシづくり活動」を取り入れた指導法について

予習や教師からの説明で獲得した知識を活用する活動として、今回の授業では、「理解確認」の場面で特定の相手に対しての『説明活動』を行い、「理解深化」の場面では、不特定の相手に向けた『チラシづくり活動』を行った。

「説明活動」では、生徒は、学習によって自分の中に取り込んだ知識を、説明という形で取り出して使う過程を通して、学習したことが実際に分かっていたかどうかを確認することができた。さらに、聞く側の反応やアドバイスを受けることにより、理解の深まりも図られた。

そして、「理解確認」の『説明活動』を経たことによって、生徒一人ひとりが学習したことを理解し、知識を総合的に活用するための素地ができあがった状態で、「理解深化」の『チラシづくり活動』を行うことができた。活動では、伝えたいことをチラシとして表現するためにグループ内で意見交換したり、他のグループのチラシを見たりすることを通して、生徒は多様な考えに触れたり、また自ら考えたりすることができた。これによって多くの生徒が、学習した知識の関連付けや、自分の経験との結び付け、そして学習したことを生かして、これからの自分の生活をより良くしようするなど理解を深めることができた。

この研究の主題に関わる課題として次のようなことが考えられる。

獲得した知識を活用する活動を行うことによって、知識の関連付けや自分の経験と結びつけて考えたり、これからの生活をより良くする方法を考えたりするなど、理解を深めることができると考えられる。この活動を「教えて考えさせる授業」の授業展開の中で充実させるためには、活動時間の確保が必要である。

そのために今回の研究では、「教える」場面においてプレゼンテーションソフトを使用し、学習内容を、図や動画などにより視覚に訴えて説明することで、生徒により具体的なイメージを持たせ、また教師の板書にかかる時間を減らすことにより、説明の効率化を図った。しかし、スライドに多くの情報を入れ過ぎてしまったことで、教師の口頭による説明の時間が、長くなることがあった。また、生徒にとって情報が多過ぎてしまい、学習内容を掴めなくなってしまうこともあった。

このことから、教師は学習指導要領解説に示されている学習内容について、生徒に何を教え、何について生徒自ら考えさせるのかなどの授業のねらいを明確にすると共に、指導内容の精選を図ることが必要であると考えられる。

本研究では、健康の保持増進のための実践力の育成を目指していくために、学習したことの理解を深める活動として、「説明活動」と「チラシづくり活動」を行った。どちらの活動も、学習した知識を活用し、受けて他者に発信するための過程の中で、説明や表現、論述などの平成20年中教審答申や学習指導要領総則で示されている言語活動が行われている。しかし、これらの活動の有効性の検証は「健康な生活と疾病の予防」の8単位時間でしか行わなかったため、他の単元における有効性の検証が今後、必要であると考えられる。

2 今後の展望

今回の研究では、市川伸一教授が提唱している「教えて考えさせる授業」の流れを活用して、「予習」や「教師の説明」によって獲得した知識を、「説明活動」によって理解確認を行った。そして学習した知識を総合的に活用する「チラシづくり活動」で理解深化を図り、「自己評価」によって、授業全体を振り返り、自己診断を行った。

「予習」では、授業の見通しをもつことを目的にした。しかし「予習」の方法や内容を工夫

することによって、生徒に見通しを持たせるだけでなく、発問などであらかじめ考えさせることで、生徒の好奇心を高めたり、疑問を持って授業に臨んだりなど、保健の授業への関心を高めることも可能であると考えられる。

「説明活動」は、キーワードカードを用いることで、他の単元での活用だけでなく、1年生から行うことが十分に可能であると言える。1年生から継続して行うことによって、3年生ではキーワードカードを用いなくても、学習したことを要約することや、自分の考えを整理することなどが自然と行えるようになると考えられる。

「チラシづくり活動」は、今回の授業では、知識を総合的に活用する目的で、比較的抽象的な課題提示から、生徒達が伝えたいことを焦点化してチラシを作成した。これを同じ課題についてチラシを作らせることにより、他のグループが作成したチラシの内容を自分達が作成したチラシの内容と比較することなどによって理解を深めることができると考えられる。また意図的に異なる課題について取り組ませることによって、幅広い知識の獲得を図ることが考えられる。

さらに、「チラシづくり活動」を、総合的な学習の時間と関連させたり、ICTの活用を図ったりすることで、より多様な情報の共有を図ることができ、理解をより深められることが期待できる。

これらのように、「教えて考えさせる授業」の流れを活用した保健分野の授業は、先行研究が極めて少ないだけに、工夫や改善の余地はたくさんあり、さらに生徒の理解を深めることができると考えられる。

3 最後に

平成24年度から完全実施されている学習指導要領では、言語活動の充実が求められ、解説では健康の保持増進のための実践力の育成を図る方法として、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を行うなどの指導方法の工夫が示された。「教えて考えさせる授業」の流れを活用し、知識を活用する学習活動として、「説明活動」及び「チラシづくり活動」に取り組んだ本研究は、理解を深めるための一つの方法を示すことができたと思う。

今回の授業では、生徒が知識を活用する学習活動を通して、自分の考えと仲間の考えを比べたり、自分とは異なる考えや表現に感心したり、それを自分の知識の中に取り入れるなど、人との関わりによって増す学ぶ事の楽しさを実感していたことが大きな成果であった。そして、これらの活動の土台になるのが知識の習得であり、この知識を自分で活用することではじめて、実感を伴った理解につながり、これからの生活に役立たせるための素地になることを感じた。

また、今回の授業で行った教師の説明におけるICTの活用やホワイトボードとキーワードカードを用いた「説明活動」が、授業を参観した教師によって国語科の授業で取り入れられるなど、本研究が学校全体に波及していったことも大きな成果である。このように、言語活動などの知識を活用する学習活動を学校全体で取り組むことによって、生徒自身が理解の深まりを実感することができ、学ぶ意欲の向上につながり、学習指導要領の理念の「生きる力」の育成に結びつくのではないだろうかと思う。

今回、このような機会をいただき、保健分野の授業についてじっくり考えることができたことは貴重な財産になると思う。教師が変わることで生徒の学びが変わることを改めて実感した。この経験を生かし、さらに研鑽を重ね続けることによって、生徒が興味・関心を持って保健の授業に臨み、実感を伴った理解の深まりを図ることができるよう授業を目指していきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 「健康教育指導プログラム集補助資料『保健学習・保健指導の充実に向けて』」栃木県教育委員会 2011年4月
- 2) 「保健学習ハンドブック<改訂版>」神奈川県立体育センター 2012年3月
- 3) 「中学校学習指導要領」文部科学省 2008年3月
- 4) 「中学校学習指導要領解説保健体育編／体育編」文部科学省 2008年9月
- 5) 「保健学習推進委員会報告書－第2回全国調査の結果－」(財)日本学校保健会
- 6) 市川伸一『「教えて考えさせる授業」を創る』図書文化 2012年5月 初版第13刷
- 7) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」文部科学省 2008年1月
- 8) 『「教えて考えさせる授業」の概要』広島県江田島市立江田島中学校ホームページ
<http://www.edc.etajima.hiroshima.jp/~etajima-chu/top/oshiete.pdf> 2013年6月
- 9) 中谷素之編「学ぶ意欲を育てる人間関係づくり～動機づけの教育心理学～」金子書房 2007年5月
- 10) 渡邊正樹「新学習指導要領で保健はどう変わったのか」体育科教育 大修館書店 2008年8月号
- 11) 森良一「新学習指導要領で保健をこう教えてほしい」体育科教育 大修館書店 2010年8月号
- 12) 溝上慎一「アクティブ・ラーニングとは」ガイドライン 河合塾 2010年11月号
- 13) 田村学『新学習指導要領の実施から1年、言語活動の充実で「活用型授業」へ』リビング「チャイム」サンケイリビング新聞社 2012年初夏号
- 14) 植田誠治「保健学習における言語活動の充実－言語活動と主体的な学び・協同的な学び－」中等教育資料 文部科学省 2011年8月号
- 15) 辻義人「子どもの学びを促す説明活動のあり方」日本教育心理学会第55回総会発表論文集 2013年
- 16) 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」文部科学省 2011年5月
- 17) 新村出編「広辞苑第六版」2008年 岩波書店
- 18) 竹村志保美「子どもの学びとは？」福岡敏行編著 コンセプトマップ活用ガイド 東洋館出版社 2003年
- 19) 和唐正勝『保健の「わかる」と「できる」を考える』体育科教育 大修館書店 2007年8月号